

平成24年度  
千葉県市町村歯科衛生士業務研究集



千葉県マスコットキャラクター  
「チーバくん」

平成24年12月

千葉県健康福祉部健康づくり支援課

## はじめに

歯・口腔の健康は、食生活の充実や全身の健康を保持増進するための重要な要素です。

県では、「千葉県歯・口腔の健康づくり推進条例」を平成22年4月から施行し、平成23年3月には「千葉県歯・口腔保健計画」を策定しました。

また、国においても、昨年8月に「歯科口腔保健の推進に関する法律」の施行、本年7月に基本的事項が制定されているところです。県においても、国の施策との連携を図りつつ、歯・口腔の健康づくりのための様々な施策を展開しており、その結果、むし歯のない幼児や児童生徒、80歳で20本以上を有する方の割合は増加してきています。

今後、地域間の格差の解消などの、さらなる歯科保健の改善を図るため、市町村歯科衛生士の皆様による日々の活動成果をまとめ、「平成24年度千葉縣市町村歯科衛生士業務研究集」として刊行することは大変有意義なことです。

この冊子が、今後の市町村等の歯科保健活動に活かされ、千葉県の歯科保健の充実につながることを心から期待しております。

平成24年12月

千葉県健康福祉部健康づくり支援課  
課長 川島 幸雄

# 目 次

1 こどものむし歯の地域差について		
	習志野市	1
2 定期的な歯科健診や歯科保健行動の状況について		
	八千代市	3
3 地域歯科保健活動における種々の「フッ化物利用」普及啓発活動の成果		
	鎌ヶ谷市	6
4 1歳6か月児歯科健康診査からみる歯科健康教育事業との関連性について		
	市川市	12
5 フッ化物洗口実施校の意識調査を実施して		
	茂原市	18
6 フッ化物洗口事業の効果について		
	木更津市	25
7 災害時保健活動マニュアルにおける歯科保健活動		
	市原市	28
8 2歳児むし歯予防教室事業の評価		
	千葉市	33
9 幼児の歯科受診状況について		
～歯みがキッズ教室でのアンケート集計結果より～		
	船橋市	38

# こどものむし歯の地域差について

習志野市 ○林 睦代 鈴木はるひ 川口 薫

## I 目的

平成 24 年 7 月に制定された歯科口腔保健の推進に関する基本的事項では、口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小に関する目標があげられている。また、千葉県歯・口腔保健計画においても、こどものむし歯の地域間格差が課題となっている。

そこで、本市におけるこどものむし歯の地域差の現状を把握し、今後の取り組みについて検討する。

## II 方法

3 歳児及び 12 歳児のむし歯について分析する。

(1) 平成 13 年度、23 年度の 3 歳児歯科健康診査受診者結果を、保健活動単位である市内 5 地区にわけて分析を行った。

平成 13 年度：1,357 人 23 年度：1,327 人

(2) 平成 22 年度、23 年度の習志野市児童生徒定期健康診断の 12 歳児の結果を、市内公立中学校 7 校で分析。

平成 22 年度：1,587 人 23 年度：1,468 人

## III 結果

(1) 3 歳児のむし歯

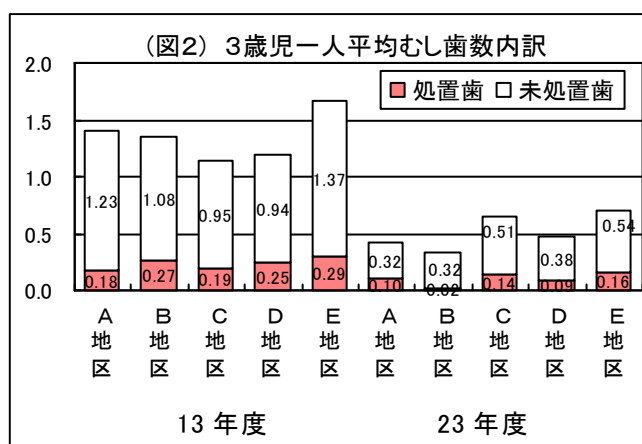
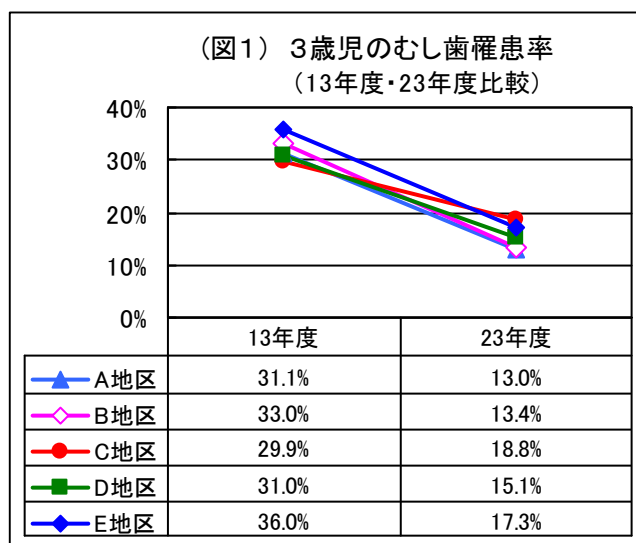
表 1 地区別むし歯の有無 (単位:人)

	13 年度		23 年度	
	なし	あり	なし	あり
A 地区	173	78	200	30
B 地区	120	59	123	19
C 地区	251	107	320	74
D 地区	218	98	236	42
E 地区	162	91	234	49
計	924	433	1,113	214
	1,357		1,327	

( $p>0.05$ )

① 13 年度、23 年度とも、5 地区において、むし歯有無の比率に有意な差はない。(表 1)

② 5 地区間でのむし歯罹患率最大値と最小値の開きは、13 年度 6.1%、23 年度 5.8%で、10 年間で地区間のむし歯罹患率の開きはわずかに減少している。(図 1)



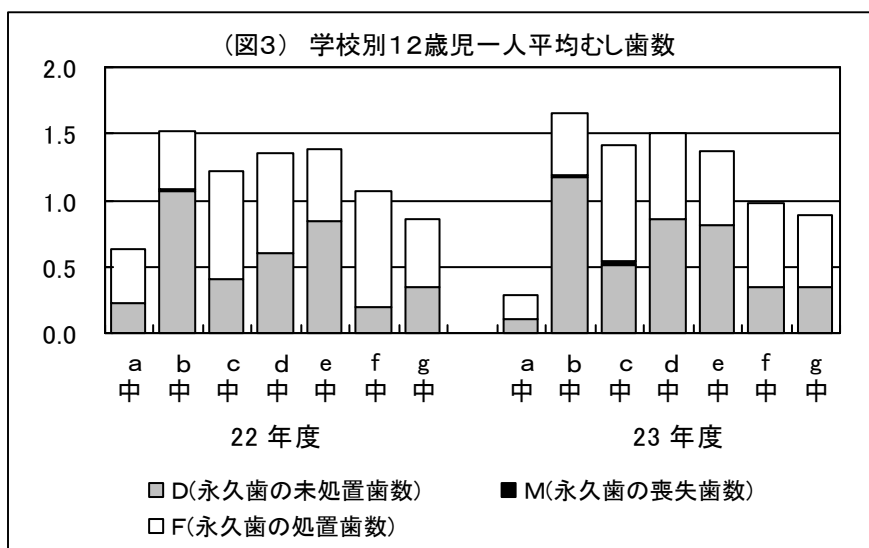
③ 5 地区間での一人平均むし歯数の最大値と最小値の開きは、13 年度 0.52 本、23 年度 0.36 本で地区間に大きな差はなく、また、10 年間で差は減少している。(図 2)

(2) 12 歳児のむし歯 (表 2、図 3)

- ① 22 年度、23 年度とも一人平均むし歯数が最も少ないのは a 中学校で、最も多いのは b 中学校だった。この 2 校の差は、22 年度 0.88 本、23 年度 1.37 本だった。
- ② 22 年度、23 年度とも一人平均むし歯数が少ないのは、a 中学校、g 中学校、f 中学校の順であり、最も多いのが b 中学校だった。
- ③ むし歯の内訳を見ると、22 年度、23 年度とも b 中学校は未処置歯が多く、それ以外の中学校は処置歯の方が多い。

表2 12 歳児DMF

区分	22 年度	23 年度
a中	0.63	0.29
b中	1.51	1.66
c中	1.21	1.41
d中	1.35	1.50
e中	1.39	1.37
f中	1.07	0.99
g中	0.85	0.88



IV 考察

3 歳児のむし歯は、10 年間で各地区同じように減少傾向であり、地区間の差も減っている。13 年度に最もむし歯罹患率が高かった E 地区は、生活環境、住環境の背景から、当市ではむし歯が多い地区とされていた。しかし、23 年度はむし歯罹患率 17.3% で、目標の 20%以下を達成している。反対に、生活レベルが高い C 地区は、13 年度は当市で最もむし歯罹患率が低かったが、23 年度は市内で一番高率である。習志野市の都市開発やマンション建設等による住環境の変化にあわせ、住民層や歯科健康意識も変化すると思われる。それらの変化も併せて歯科保健活動を行う必要がある。

12 歳児においては、3 歳児よりも一人平均むし歯数の差が大きい。一人平均むし歯数が多い b 中学校及び学区の小学校の学校歯科医、養護教諭と連携し、永久歯のむし歯を減らす取り組みが必要である。

また、児童生徒定期健康診断結果は、教育委員会にデータ提供を依頼している。しかし、提供されたデータ内容が統一されていない為、今回は 10 年前のデータと比較することができなかった。今後は、地域差の分析を行えるように、データを整備したい。

当市の 3 歳児ではむし歯罹患率に地域差は無いが、12 歳児では一人平均むし歯数で差が広がることがわかった。地域差、個人の健康格差が生じないように、健診結果データの確認、生活習慣、地区の特性等を把握し、歯科保健活動をすすめていきたい。

# 定期的な歯科健診や歯科保健行動の状況について

八千代市 ○尾留川裕実子（健康づくり課）

## I 目的

八千代市では、平成 16 年 3 月に市民の健康づくりに関する具体的な目標を掲げた「八千代市健康まちづくりプラン」を策定して、歯科保健を推進してきた。

平成 25 年度からの新たな計画となる「第 2 次健康まちづくりプラン」を策定するにあたり、基礎資料とするために、市民の健康の考えや生活習慣に関するアンケート調査を実施した。この調査の中で、定期的な歯科健診の受診状況や歯科保健行動の特徴を把握し、今後の取り組みについて検討する。

## II 方法

1. **対象**：平成 23 年 11 月 7 日～28 日に実施した「八千代市第 2 次健康まちづくりプラン策定のためのアンケート調査」で、市の年齢構成に従って無作為抽出を行った 18 歳以上 65 歳未満の市民を対象とした成人調査と 65 歳以上の市民を対象とした高齢者調査
2. **内容**：性別、年代、受診状況など属性に関する項目、受けていない理由、歯や口の健康のための取り組み状況

## III 結果

### 1. 対象の概要

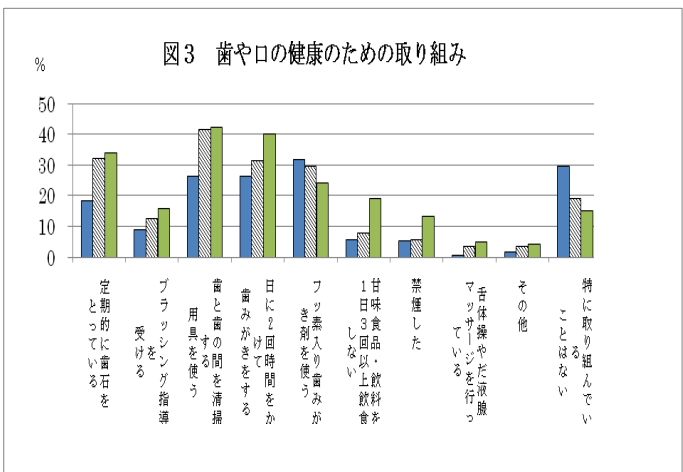
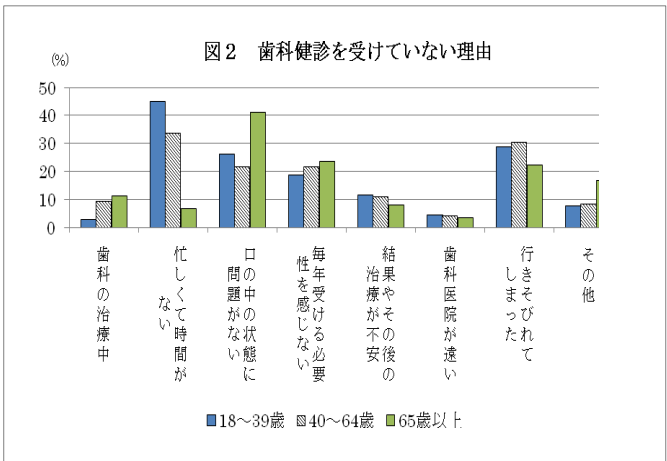
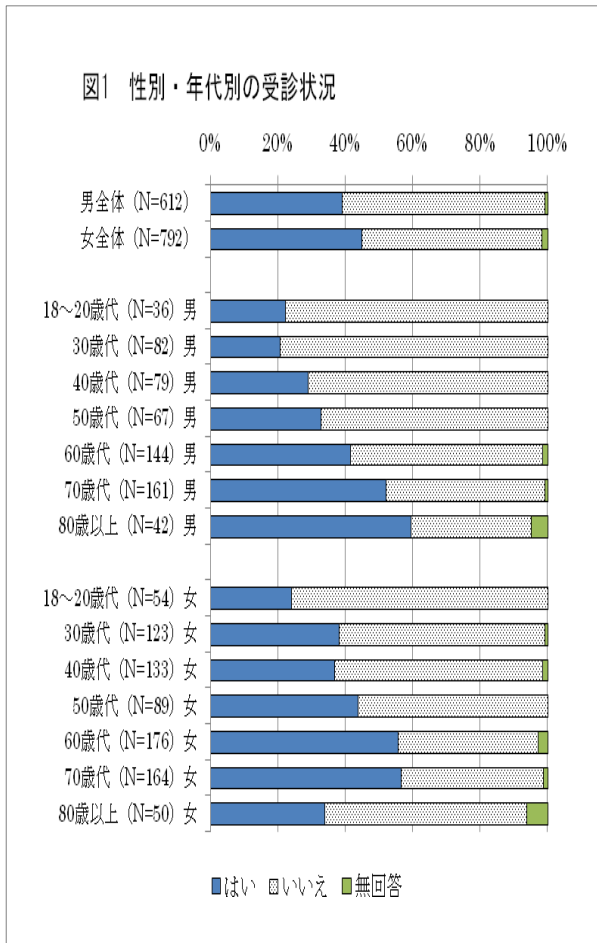
有効回答数 成人調査：803 人（40.2%）、高齢者調査：613 人（61.3%）

### 1) 性別、年代別の受診状況（図 1）

定期的（1 年に 1 回以上）な歯科健診の受診状況は、男全体で 39.1%、女全体で 45.1%、男女合計で 42.5%であり、80 歳以上を除き各年齢層において女性が高い割合を示した。男性は年齢が上がるにつれて増加し、女性は 80 歳以上を除いて増加傾向がみられた。18～20 歳代の男女と 30 歳代の男性が 2 割強と低い受診状況である。

### 2) 定期的な歯科健診を受けていない理由（図 2）

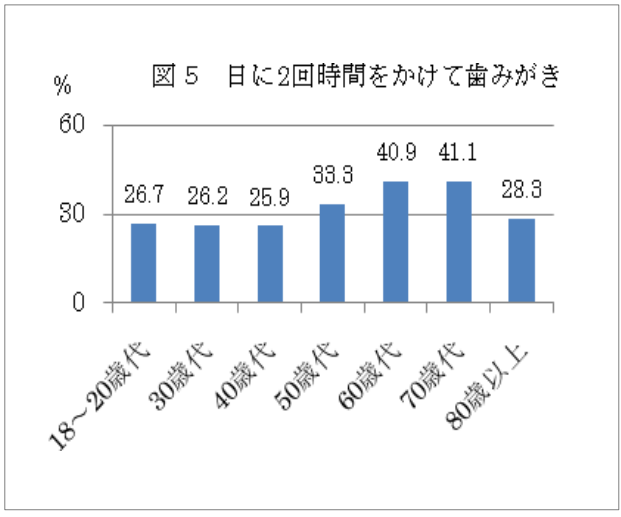
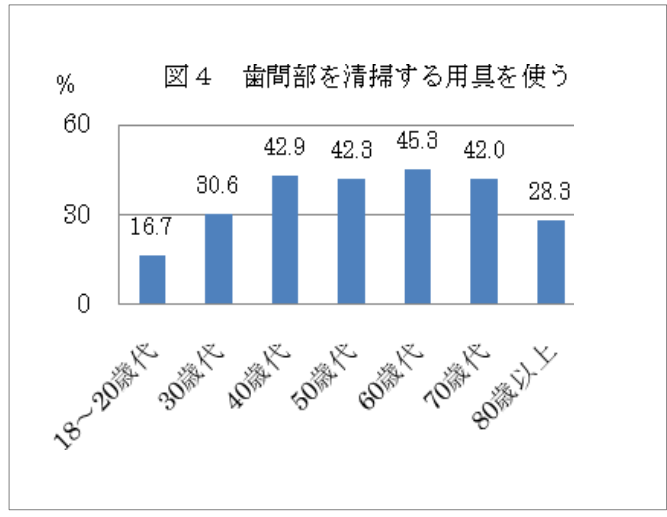
18～39 歳では「忙しく時間がないから」45.0%が最も多く、次いで「行きそびれてしまったから」28.7%、「口の中の状態に問題がないから」26.3%の順である。40～64 歳では「忙しく時間がないから」33.7%、「行きそびれてしまったから」30.3%である。65 歳以上では「口の中の状態に問題がないから」41.1%が最も多く、次いで「毎年健診を受ける必要性を感じないから」23.7%、「行きそびれてしまったから」22.3%の順である。

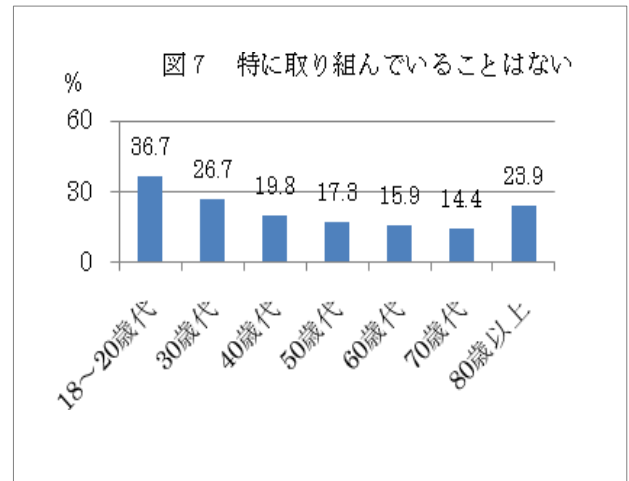
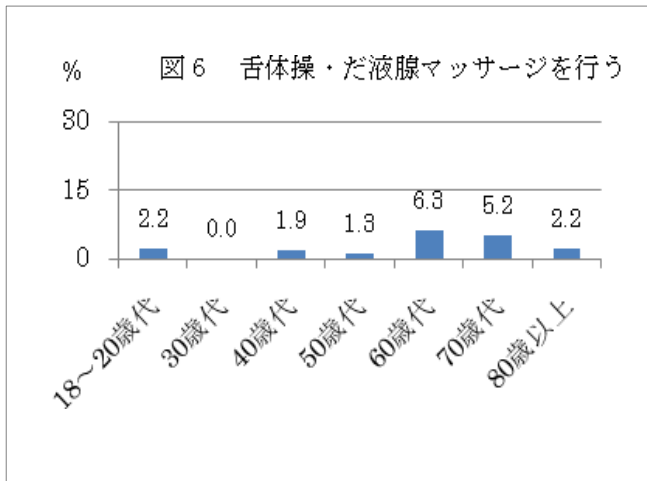


### 3) 歯や口の健康のための取り組み

#### 3) 歯や口の健康のための取り組み (図3)

18~39歳では「フッ素入りの歯みがき剤を使う」31.8%が最も多く、次いで「特に取り組んでいることはない」29.7%である。40~64歳では「歯と歯の間を清掃するための用具を使う」41.5%、「定期的に通っている」32.1%の順である。65歳以上では「歯と歯の間を清掃するための用具を使う」42.1%、「日に2回は時間をかけて、丁寧に歯みがきをする」40.0%の順である。性別でみると、「禁煙した」「特に取り組んでいることはない」を除いては、いずれも女性の方が多い。





歯科保健行動で、「歯間部を清掃する用具を使う」は年齢が上がると増加し、40～70歳代では4割強が使用している。「日に2回は時間をかけて歯みがきをする」は、18～40歳代はほぼ同じ割合であるが、70歳代が41.1%で最も高い。「舌体操・だ液腺マッサージを行う」は、各年代で非常に低い状況である。「特に取り組んでいることはない」は、18～20歳代が36.7%で最も高く、年齢とともに減少している。

#### IV 考 察

定期的な歯科健診については、18～30歳代が低い受診状況であり、この世代に対して、歯科健診の受診を促すための情報提供などの働きかけを検討していく必要がある。また「口の中の状態に問題がないから」「毎年受ける必要性を感じないから」「行きそびれてしまった」の理由で歯科健診を受けていない人に、歯周病を予防するために、定期的な歯科健診を受けることで歯や口腔の状態を把握することができ、歯石除去などの予防管理につながることを啓発する取り組みが必要である。

歯科保健行動については、60歳代が歯や口の健康のための取り組みを行っている割合がいずれも高い。自覚症状があらわれるなど歯や口腔内に関心が高まる年代であるが、より若い世代から歯間部清掃などセルフケアの実践と口腔機能の維持にむけて、取り組む必要があると確認できた。

平成23年8月に施行された歯科口腔保健の推進に関する法律で、定期的に歯科検診を受けること等の勧奨が定められており、また八千代市市民の歯と口腔の健康づくり推進条例においても、基本的施策で定期的に歯科に係る検診を受けるとともに必要に応じて歯科保健指導を受けることを促進することが定められている。今後、本調査で把握された状況をもとに、成人・高齢期における具体的な取り組みについて、歯科医師会や関係機関と検討していきたい。



# 地域歯科保健活動における種々の「フッ化物利用」 普及啓発活動の成果

鎌ヶ谷市 ○西山 珠樹 山中由美子 山崎典子

## I 目的

A市では、国の「フッ化物洗口ガイドライン」公表を契機に、平成16年度より種々のフッ化物利用を取り入れた地域歯科保健活動を展開した。今回は平成23年度までの8年間の取り組みと成果について報告する。(A市人口:107千人、H23. 3.31現在)

## II 方法

地域歯科保健活動の取り組みについてまとめ、活動成果の把握のために①就学時健康診査受診児の歯科保健行動について、保護者対象の質問調査、②施設単位フッ化物洗口実施状況について現地での聞き取り調査、③3歳児・12歳児う蝕有病状況について、健康診査結果の集計・比較を行った。

## III 結果

フッ化物利用の普及啓発の取り組みは、保健センターにおいて妊娠中や乳幼児期から機会を重ねて行い、学齢期や一般向けにも就学時健康診査や福祉健康フェアなどで、普及啓発を行ってきた。また、施設単位フッ化物洗口の取り組みも進めてきた(取り組み1～3)。

成果として、就学時健康診査時の保護者質問調査において、いずれの項目でも、フッ化物について知っている人や利用している人が多くなっている様子がわかった(成果1)。また、フッ化物洗口の実施設と実施人数が飛躍的に増えた(成果2)。そして、う蝕有病状況では3歳児と12歳児で減少し、特に12歳児DMFTの県下市町村順位は、平成16年度79市町村中64位から平成22年度54市町村中18位となった(成果3)。

### 【取り組み1】

①妊婦歯科健康診査でのフッ化物配合歯磨剤の普及啓発

②1歳6か月児健康診査 (㊦)、2歳児歯科健康診査 (㊩) でのフッ化物塗布の実施

③3歳児健康診査でのフッ化物洗口・フッ化物配合歯磨剤の普及啓発

【実績】※①～③実施率=実施人数/健診対象者数×100

内容		年度							
		16	17	18	19	20	21	22	23
①	人数(人)	132	166	172	198	213	143	119	126
	実施率(%)	14.4	18.8	18.8	20.7	20.6	14.0	11.9	12.6
②	㊦人数(人)	149	123	52	137	127	110	102	122
	㊦実施率(%)	15.6	13.5	5.6	14.7	13.9	11.7	10.3	12.6
	㊩人数(人)	624	490	489	475	450	380	511	516
	㊩実施率(%)	65.1	53.6	52.4	51.0	49.2	40.4	51.8	53.3
③	人数(人)	871	906	900	785	888	838	853	866
	実施率(%)	88.5	89.5	91.2	89.9	92.0	88.8	88.5	87.2

**【取り組み2】**

- ①就学時健康診査での保護者向けフッ化物配合歯磨剤・フッ化物塗布・フッ化物洗口・シーラントの教育
- ②福祉健康フェアでのフッ化物洗口の紹介とフッ化物洗口体験・水道水フロリデーションの紹介とフロリデーション水の試飲

**【実績】** ※①実施率=実施人数/対象者数×100、②実施率=実施人数/来所者数×100 ◇1 東日本大震災のため中止

内容		年度							
		16	17	18	19	20	21	22	23
①	人数(人)	801	1003	662	743	938	907	951	805
	実施率(%)	75.9	100	65.0	78.6	94.9	100	100	83.8
②	洗口人数(人)	38	93	101	88	99	—	—	—
	水道水人数(人)	—	—	—	—	—	276	231	◇1
	実施率(%)	14.2	21.4	21.4	26.8	30.4	45.4	29.4	

**【取り組み3】**

- ①保育園・幼稚園・小学校でのフッ化物洗口実施基盤整備(保護者や関係者への説明会)や継続的な支援(園児や児童への教育)

**【実績】**

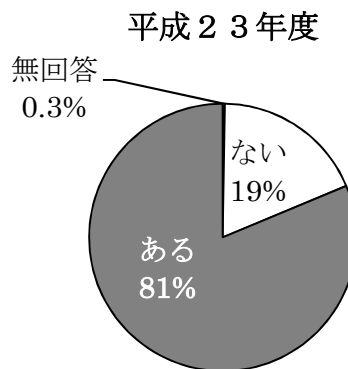
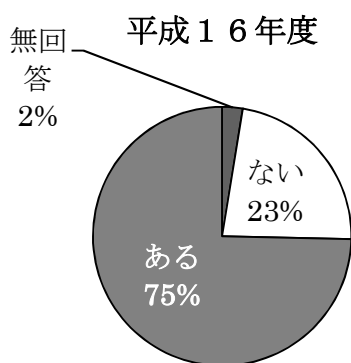
内容		年度							
		16	17	18	19	20	21	22	23
①	説明会実施回数	4	7	13	13	16	5	1	1
	説明会参加人数	156	211	124	503	1569	528	31	22
	教育実施回数	—	—	4	9	27	55	61	50
	教育参加人数	—	—	101	900	1572	1824	2667	2060

**【成果1】 就学時健康診査時の保護者アンケート結果**

回答者数：平成16年度 978人/平成23年度 785人

- ①お子さんは、今までに歯科医院に行ったことがありますか。(単一回答)

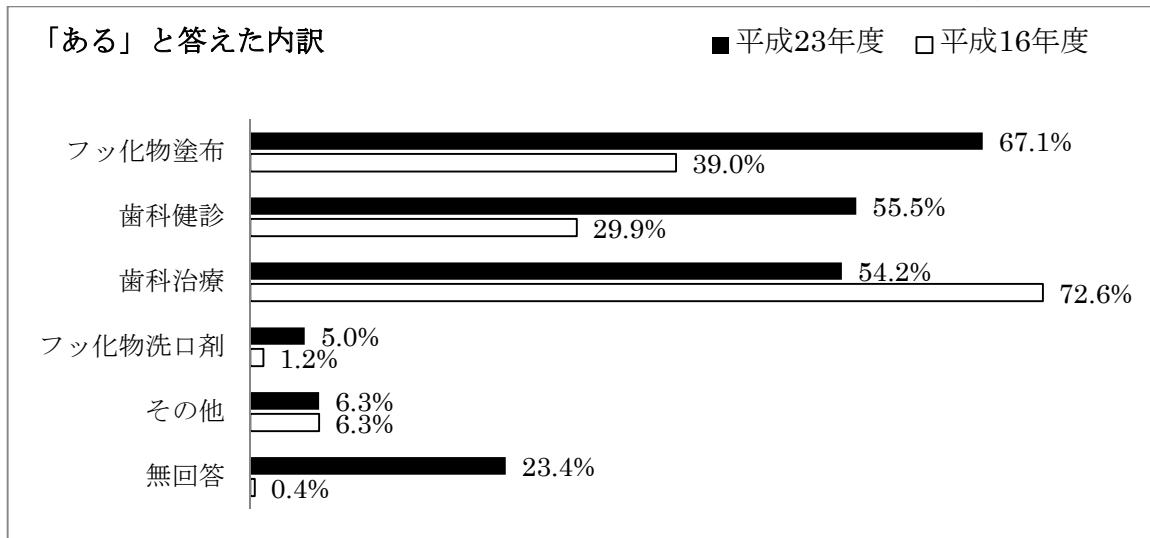
(16年度 n=978、23年度 n=785)



歯科医院に行ったことのある人は、6ポイント増加していた。

②歯科医院に行ったことがある方はその理由は何ですか。(重複回答)

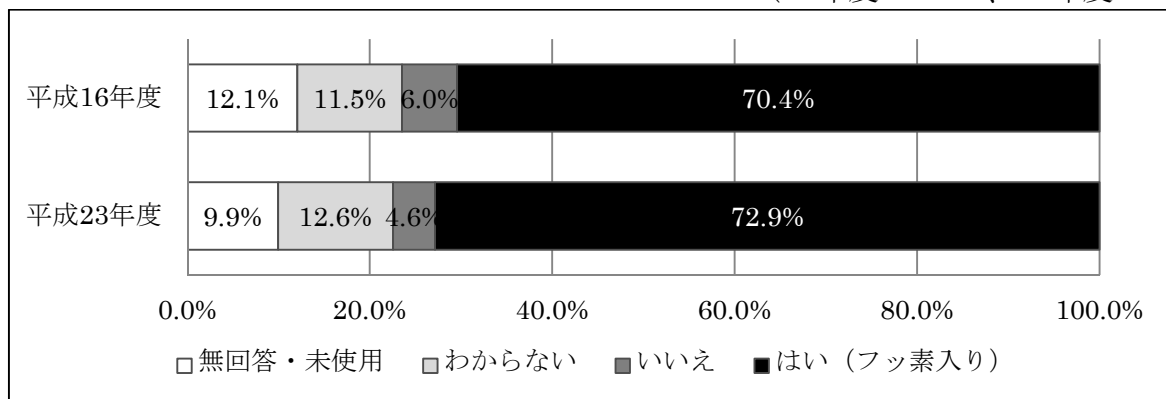
(16年度 n=730、23年度 n=638)



歯科治療は18.4ポイント減少したが、歯科健診が25.6ポイント、フッ化物塗布が28.1ポイント、フッ化物洗口剤を求めることが3.8ポイント増加していた。

③お子さんが歯みがき剤を使っている方はフッ素入りのものですか。(単一回答)

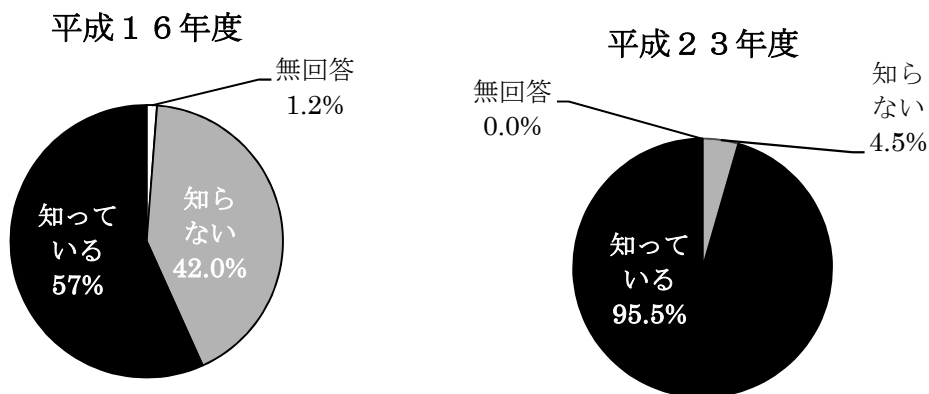
(16年度 n=860、23年度 n=707)



フッ素入り歯みがき剤を使っている子どもは、2.5ポイント増加した。

④あなたはフッ素洗口 (フッ化物洗口) を知っていますか。(単一回答)

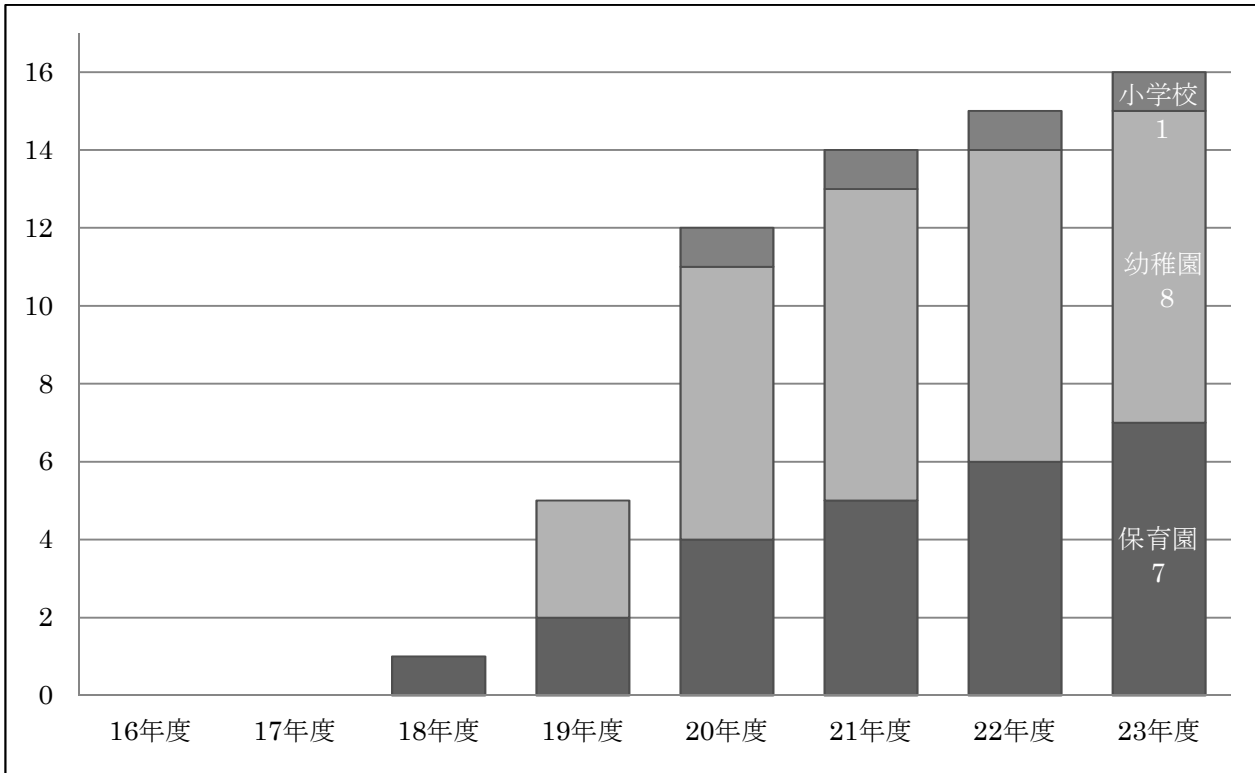
(16年度 n=978、23年度 n=785)



フッ化物洗口を知っている人は38.5ポイント増加した。

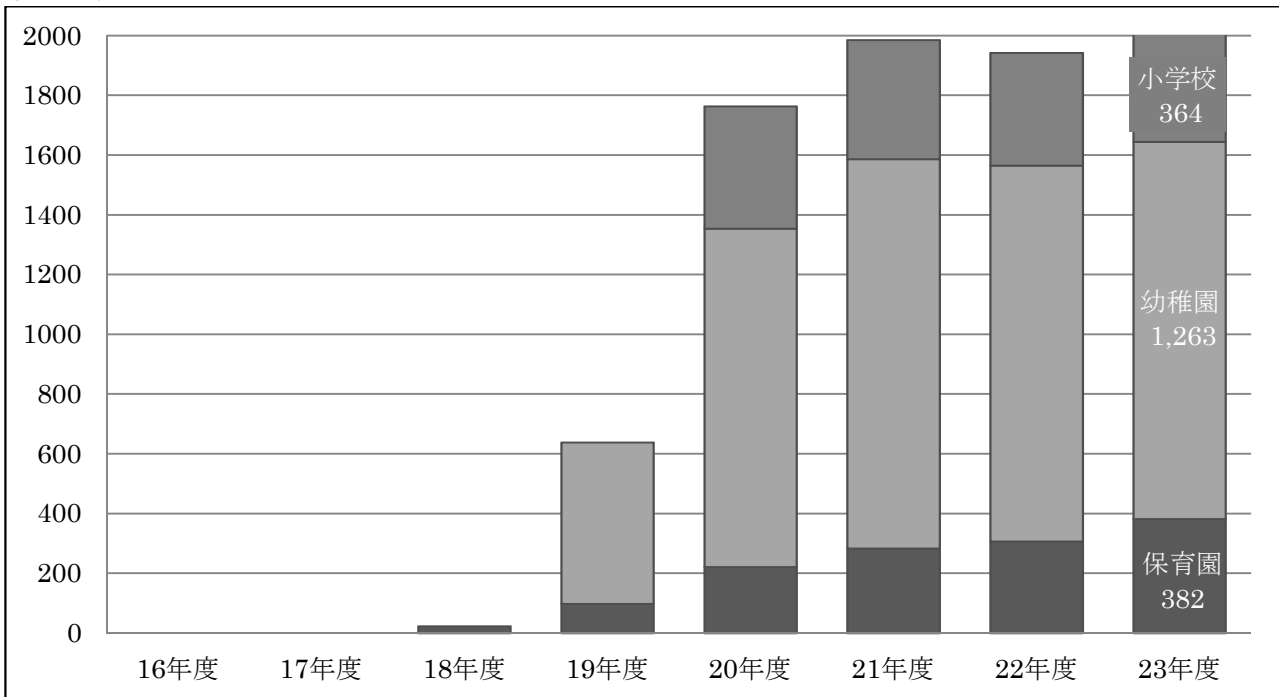
【成果 2】施設単位フッ化物洗口の状況

①フッ化物洗口実施施設数



平成 16・17 年度は、地元歯科医師会や行政関係者、施設関係者等との勉強会を開催し、フッ化物洗口に対する認識の共有を図り、平成 18 年度にモデル保育園を設置した。また、平成 20 年度には、モデル小学校におけるフッ化物洗口を開始した。

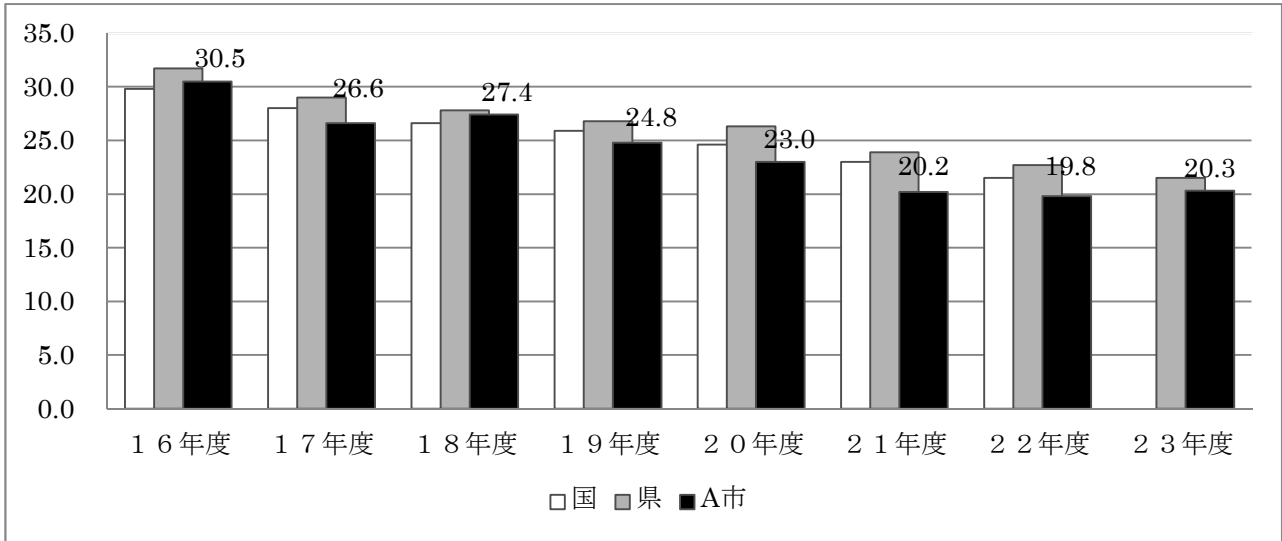
②フッ化物洗口実施人数（人）



施設単位フッ化物洗口は平成 16 年度 0 か所 0 人から平成 23 年度 16 か所 2,009 人に増加した。

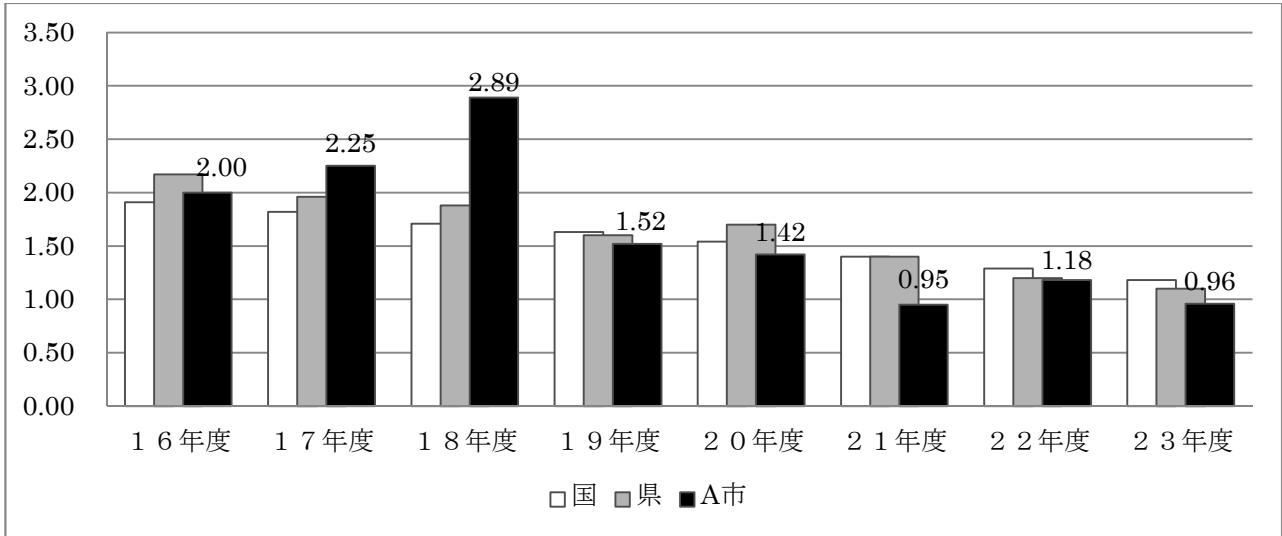
【成果3】 3歳児と12歳児のう蝕有病状況

① 3歳児 dmf 者率(%)



平成23年度は、平成16年度に比べて10.2ポイント減少した。

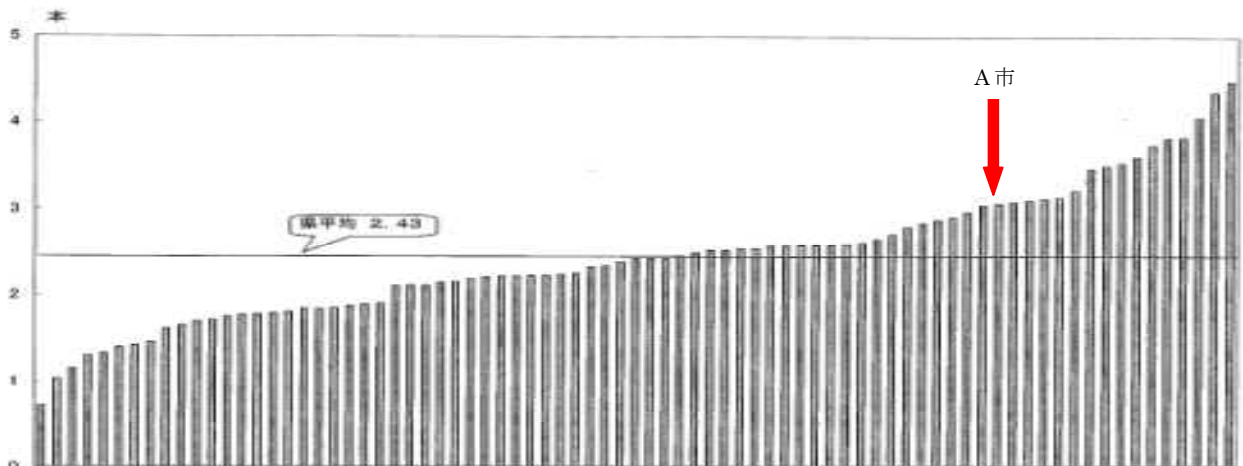
② 12歳児DMF T(本)



平成23年度は、平成16年度に比べて、1.04本減少した。

③ 12歳児DMF T(本)の県下市町村順位

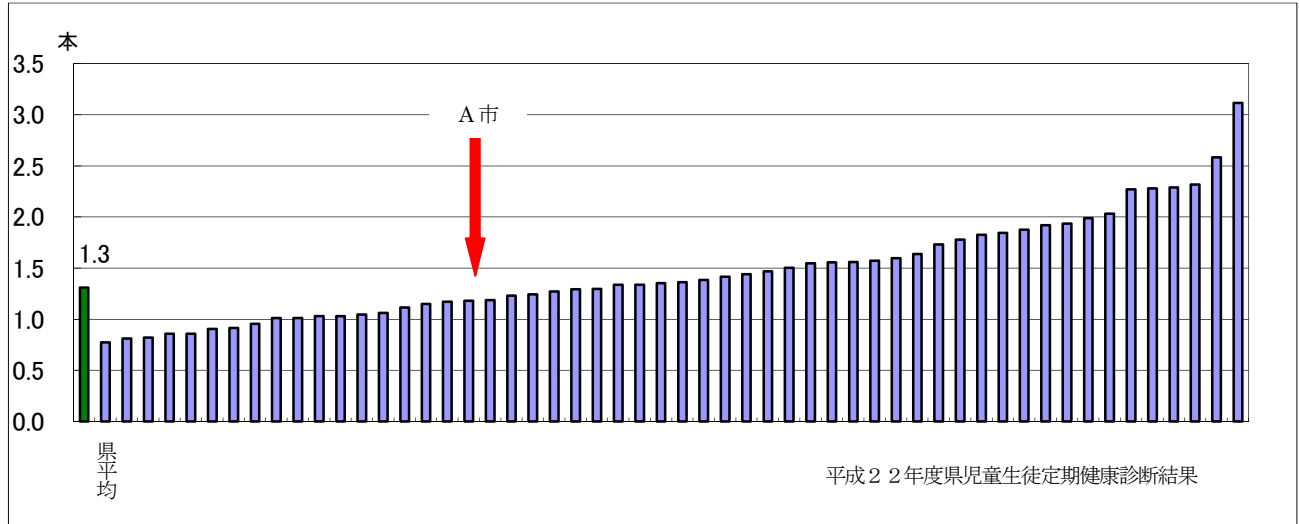
ア) 平成16年度市町村別12歳児DMF T(本)



平成16年度は、79市町村中64位であった。

平成16年度県児童生徒定期健康診断結果

## イ) 平成 22 年度市町村別 12 歳児 DMF T (本)



平成 22 年度は、54 市町村中 18 位であった。

## IV 考察

A 市では、1970 年代よりう蝕予防として乳幼児・学童または保護者に対して、ブラッシング指導や間食指導を中心とした普及啓発活動を行っていたが、「フッ化物の応用」については乳幼児健康診査でフッ化物歯面塗布を希望者に実施する程度であった。また、フッ化物の応用に関して、地域歯科保健対策の明確な推進の方向性も見出せずにいた。

しかし、平成 15 年国より「フッ化物洗口ガイドライン」が公表され、「フッ化物洗口」の安全性と効果および方法が示されたのをきっかけに、それまで取り組んでこなかった「フッ化物洗口」をう蝕予防対策に取り入れ推進することを明確にすることができた。

そこでまず、妊娠中から就学前まで地域歯科保健活動の母子保健のあらゆる場面において「フッ化物応用」の普及啓発活動を行い、「フッ化物応用」に関して、「聞いたことがない」「知らない」人をなくすことから開始した。その結果、就学時健康診査の保護者アンケートでは、平成 23 年度と普及啓発開始当時の平成 16 年度に比べて、「フッ化物洗口を知っている人」は 38.5 ポイント増加し、保護者の 95.5% が知っているという状況まで改善してきていることがわかった。また、就学までに子どもを歯科医院に通わせる人が増え、その内容は、治療よりも歯科健診やフッ化物歯面塗布など、う蝕予防の目的で通院していることが大幅に増えていることがわかった。このことは、「フッ化物の応用」で「むし歯が防げる」ことが保護者に理解され、保護者のう蝕予防に対する意識が一段と向上してきたためと思われる。

また、施設単位フッ化物洗口では、モデル保育園やモデル小学校を設置しながら、経年ごとにフッ化物洗口を実施する施設が増えるよう支援してきた。その結果、実施施設数や実施人数の増加に繋がってきた。これらのことから、12 歳児 DMF T が減少し、県下における 12 歳児 DMF T の市町村順位も改善してきているものと思われる。

しかしながら、現状の「フッ化物の応用」は、保健センターでの普及啓発、保育園や幼稚園を中心とした施設単位フッ化物洗口が多く、就学前の幼児を対象にしたものが中心である。フッ化物洗口として、本来の目的である「永久歯を健全に保つ」ための対策としては未だ不十分な状態であると言える。今後は、学童期の「フッ化物の応用」について推進し、12 歳児 DMF T をさらに減少させ市民の健全で丈夫な歯づくりを支援していきたい。

本研究は、日本大学松戸歯学部社会口腔保健学講座の支援を受け、第 60 回日本口腔衛生学会においてポスター発表を行ったものにデータを更新して加筆したものである。

# 1歳6か月児歯科健康診査からみる

## 歯科健康教育事業との関連性について

市川市 ○杉本純子 那須啓子 北原洋子 進藤知津

### I 目的

乳幼児のむし歯予防には、食生活、生活リズム、歯みがき習慣が重要である。その中でも、保護者の仕上げみがきの習慣がむし歯の罹患を低下させる一因として重要な行動と考え、妊婦、乳児を対象とした歯科健康教育事業を実施している。

今回、市川市の1歳6か月児歯科健康診査の受診者の状況を集計し、仕上げみがきの習慣、歯垢染め出しの結果、歯科健康教育事業の受講経験による影響、むし歯有病者との関係を検討することで、今後の歯科保健活動の資とすることを目的とした。

### II 方法

1. 千葉県健康福祉部でまとめた「市町村歯科健康診査（検診）実績報告書」から市川市と他市の状況を把握した。
2. 平成24年度（4月～9月実施）の市川市1歳6か月児歯科健康診査を受診した者1,924人の集計をした。
  - 1) 1歳6か月児歯科健康診査受診者の仕上げみがきの習慣について調べた。
  - 2) 歯科健康教育事業「赤ちゃん和妈妈の歯みがきレッスン」（以下「レッスン」という）の参加の有無による仕上げみがきの習慣、母乳摂取の状況、哺乳びんの使用状況を比較した。
  - 3) レッスン参加者とむし歯有病者の歯垢染め出し（プラークスコア）の結果を比較した。

### III 結果

1. 千葉県「市町村歯科健康診査（検診）実績報告書より、市町村歯科保健研修会の同一ブロック（6市）と千葉県の平均を年度別にまとめてみた。市川市の1歳6か月児歯科健康診査の仕上げみがきの状況は、22年度は未集計（表1）、23年度は手集計（表2）、24年度からデータ集計を行った。

1歳6か月児歯科健康診査の仕上げみがきをする割合をみると、市川市は76.1%であり、他市と比較すると低いことがわかった。しかし、むし歯の有病者率は他市と比較しても差はないといえる。

## 22年度 市川市と他市の状況

(表1)

		市川市	A 市	B 市	C 市	D 市	E 市	千葉県 (14市町村)
1・6 健診	対象者数	4,480	1,573	1,914	987	1,714	6,251	
	受診者数	3,792	1,410	1,502	918	1,655	5,505	9,547
	受診率(%)	84.6%	89.6%	78.5%	93.0%	96.6%	88.1%	
	むし歯のある者	54	21	56	22	26	91	
	むし歯有病者率(%)	1.4%	1.5%	3.7%	2.4%	1.6%	1.7%	
	むし歯の総数	160	77	152	66	78	257	
	仕上げ磨きをする		1,163	1,419	750	1,258	4,394	
	仕上げ磨きをする(%)		82.5%	94.5%	81.7%	76.0%	79.8%	79.8%
3 歳児 健診	対象者数	4,277	1,510	2,012	964	1,677	5,962	
	受診者数	3,481	1,326	1,318	853	1,536	4,900	17,466
	受診率(%)	81.4%	87.8%	65.5%	88.5%	91.6%	82.2%	
	むし歯のある者	630	250	340	169	300	742	
	むし歯有病者率(%)	18.1%	18.9%	25.8%	19.8%	19.5%	15.1%	
	むし歯の総数	2,027	812	1,216	680	1,070	2,656	
	仕上げ磨きをする	3,156		1,270	800	1,390	4,454	
	仕上げ磨きをする(%)	90.7%		96.4%	93.8%	90.5%	90.9%	93.8%
1.6健診と3歳児健診の 仕上げ磨きをする(%)の差				1.9%	12.1%	14.5%	11.1%	14.0%

平成22年度 市町村歯科健康診査(検診)実績報告書 引用

## 23年度 市川市と他市の状況

(表2)

		市川市	A 市	B 市	C 市	D 市	E 市	千葉県 (22市町村)
1・6 健診	対象者数	4,431	1,464	1,896	969	1,648	5,994	
	受診者数	3,883	1,401	1,440	898	1,568	5,388	9,558
	受診率(%)	87.6%	95.7%	75.9%	92.7%	95.1%	89.9%	
	むし歯のある者	61	14	21	14	27	65	
	むし歯有病者率(%)	1.6%	1.0%	1.5%	1.6%	1.7%	1.2%	
	むし歯の総数	166	34	63	62	61	180	
	仕上げ磨きをする	2,954	1,168	1,387	811	1,254	5,328	
	仕上げ磨きをする(%)	76.1%	83.4%	96.3%	90.3%	80.0%	98.9%	88.1%
3 歳児 健診	対象者数	4,301	1,474	1,963	993	1,786	5,999	
	受診者数	3,575	1,327	1,224	866	1,629	5,156	21,168
	受診率(%)	83.1%	90.0%	62.4%	87.2%	91.2%	85.9%	
	むし歯のある者	625	214	293	176	327	768	
	むし歯有病者率(%)	17.5%	16.1%	23.9%	20.3%	20.1%	14.9%	
	むし歯の総数	2,073	733	1,097	563	1,055	2,409	
	仕上げ磨きをする	3,210		1,168	821	1,462	5,149	
	仕上げ磨きをする(%)	89.8%		95.4%	94.8%	89.7%	99.9%	95.8%
1.6健診と3歳児健診の 仕上げ磨きをする(%)の差		13.7%		-0.9%	4.5%	9.7%	1.0%	7.7%

平成23年度 市町村歯科健康診査(検診)実績報告書 引用



2. 平成 24 年度（4 月～9 月実施）の市川市 1 歳 6 か月児歯科健康診査の受診者 1,924 人について、市川市の 1 歳 6 か月児歯科健康診査票（図 1）の設問にそってデータ集計を行った。

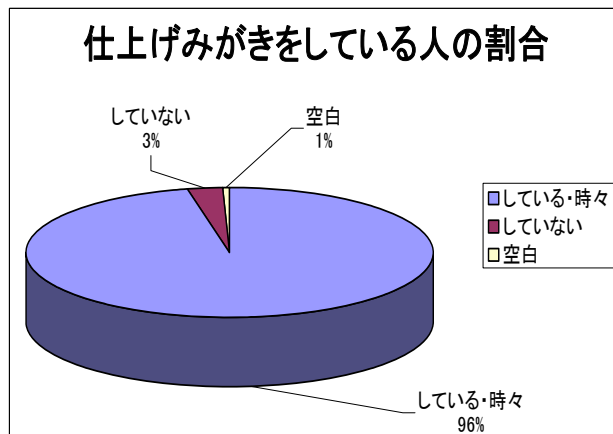
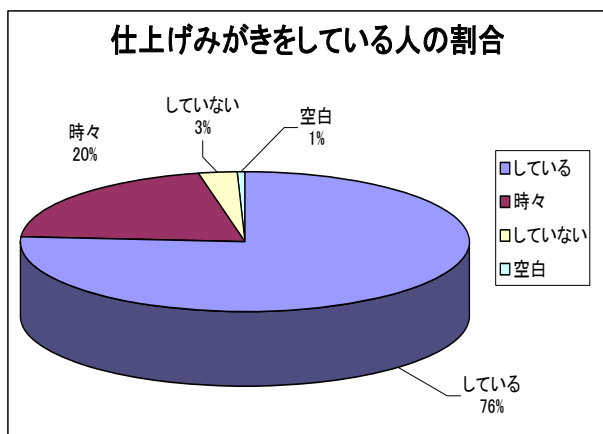
（図 1）

1) 受診者の仕上げみがきの習慣

1 歳 6 か月児歯科健康診査票では、「お子さんに仕上げみがきをしていますか」という設問に対して、回答は「している」「時々している」「していない」の選択肢としている。この項目を集計した結果、1,924 人中「している」は 1,467 人(76.2%)、「時々している」は 393 人(20.4%)、「していない」は 53 人(2.8%)、未記入は 11 人 (0.6%) となった。(図 2) この結果は 23 年度とほぼ同様であった。しかし、「している」と「時々している」をあわせて仕上げみがきをしていると捉えると 1,860 人 (96.7%) に及ぶこともわかった。(図 3)

（図 2）

（図 3）



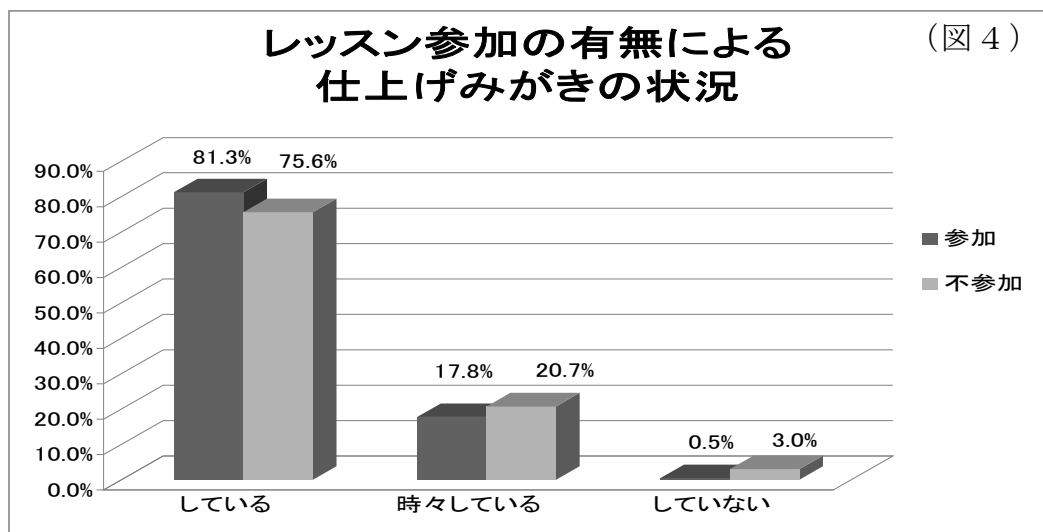
2) 歯科健康教育事業の参加の有無による比較

平成 24 年度（4 月～9 月実施）の市川市 1 歳 6 か月児歯科健康診査の受診者 1,924 人のうち、レッスンに参加していた者は 208 人 (11%)、レッスン不参加者は 1,716 人(89%)であった。レッスン参加の有無により仕上げみがきの習慣、母乳摂取の状況、哺乳びんの使用状況を比較した。レッスン参加者は 1 歳 6 か月児歯科健康診査の受診者全体の 11%と少ない割合であるが、平成 23 年度のレッスン参加者 444 人のうち、市外へ転出した者やこれから健診を受診する予

定の者がいるため、現段階までの状況として報告する。

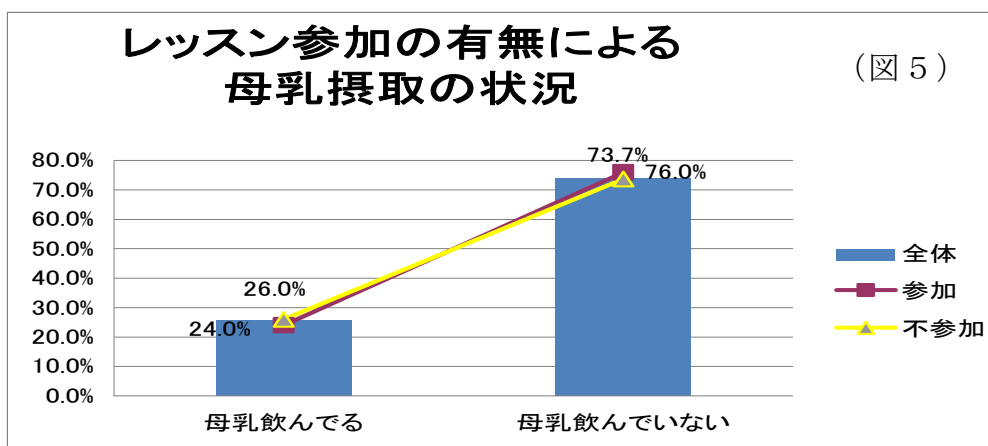
この歯みがきレッスンでは、歯のはえ方や歯ブラシの選び方、仕上げみがきの方法を指導し、仕上げみがきの実技も行っている。また、1歳6か月児歯科健康診査への受診勧奨もあわせて行っている。このことからレッスン参加者はむし歯予防に対する意識が高く、仕上げみがきが定着している者が多いと推測した。そこで、レッスン参加の有無による仕上げみがきの状況を比較した。

レッスン参加者は「仕上げみがきをしている」者が81.3%と高い割合を示し、仕上げみがきの習慣が定着しているといえる。反対にレッスン不参加者は仕上げみがきをしていない者の割合が多かった。(図4)

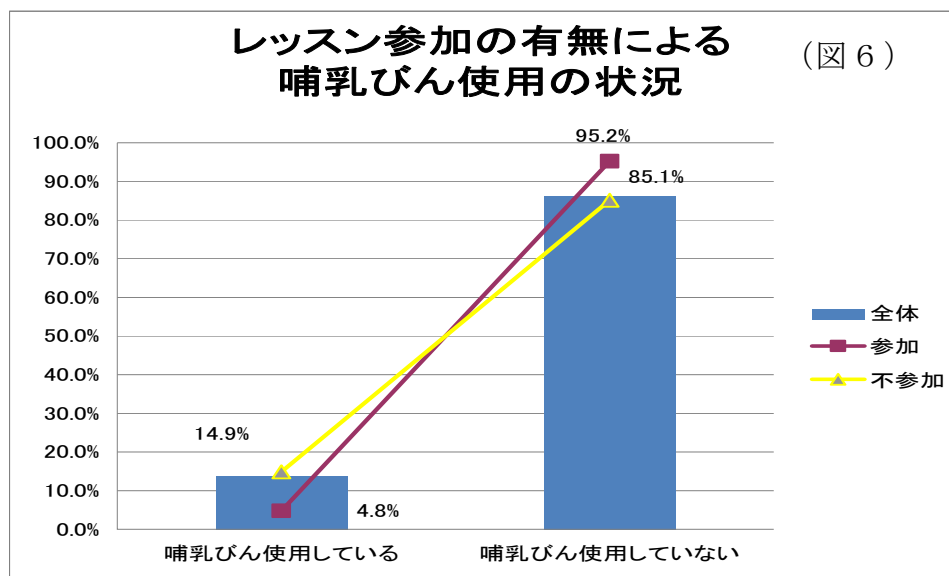


また、レッスンでは、母乳摂取や哺乳びんの使用がむし歯の罹患の要因となることを伝えている。実際にレッスン参加者からは、「歯がはえてきたのに母乳を与えているとむし歯になるのか」「就寝前や夜中の授乳の後は、歯みがきをした方がよいか」などの質問は多い。そこで、レッスン参加者は母乳摂取や哺乳びんの使用がむし歯と関係があるという意識が高いと推測し、レッスン参加の有無による母乳摂取の状況や哺乳びんの使用状況を比較した。

まず母乳摂取の状況については、受診者全体では496人(25.8%)であった。摂取していない者は1,422人(73.9%)であった。母乳摂取の状況にレッスン参加の有無による差はみられなかった。(図5)

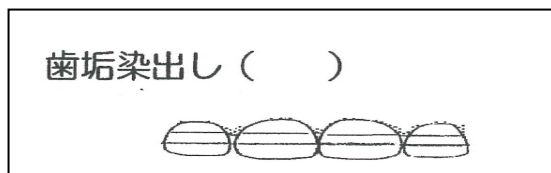


次に、哺乳びんの使用状況を比較してみると、受診者全体のうち、哺乳びん使用が 265 人(13.8%)であった。哺乳びん不使用は 1,659 人(86.2%)であった。レッスン参加者は哺乳びんを使用している者が 10 人(4.8%)、使用していない者は 198 人(95.2%)であった。レッスン不参加者は哺乳びんを使用している者が 255 人(14.9%)、使用していない者は 1,461 人(85.1%)であった。(図 6) レッスン参加の有無によって哺乳びんの使用状況には差があることが伺えた。



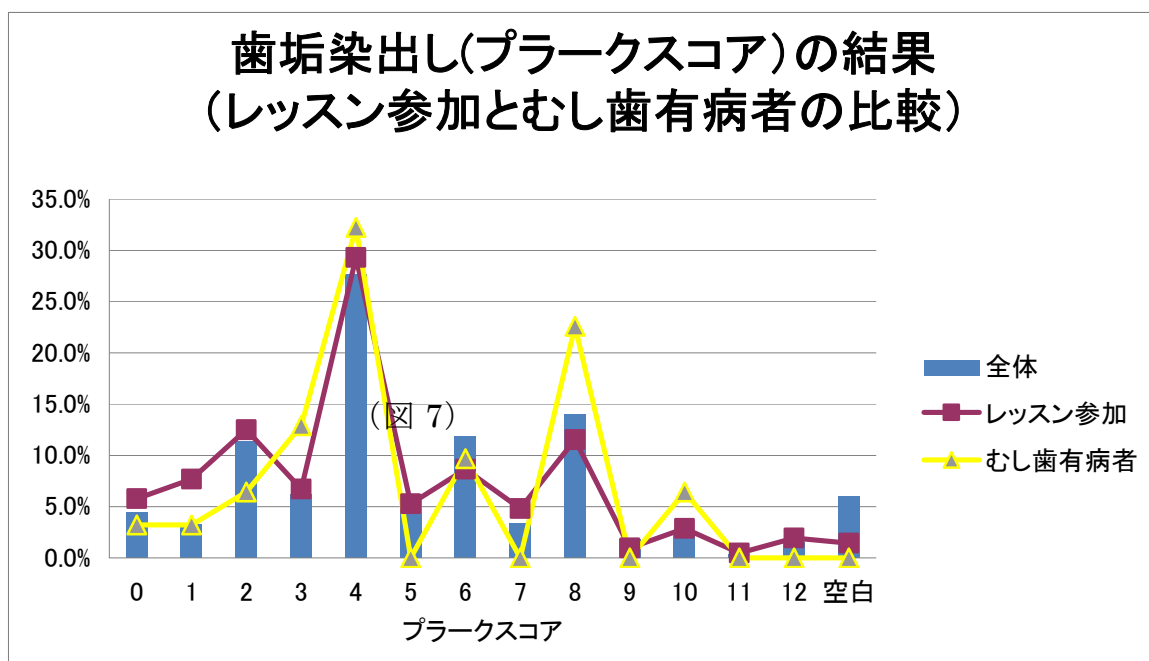
### 3) 歯垢染め出し (プラークスコア) の結果の比較

1 歳 6 か月児歯科健康診査では、歯科健診の後に歯垢染め出しを実施している。上顎乳前歯 4 歯の歯垢の付着をプラークスコアで表している (0~12)。(図 7)



1 歳 6 か月児歯科健康診査受診者全体のプラークスコアの平均は 4.8、最も多いプラークスコアが 4 (27.7%)、次いで多いプラークスコアが 8 (14%) という状況であった。

レッスン参加者は、プラークスコアの平均は 4.5、プラークスコア 0、1、2、3、4 と歯垢の付着が少ない者が多い傾向であった。しかし、むし歯有病者はプラークスコアの平均は 5、プラークスコア 8、10 と歯垢の付着が目立つ者が多かった。(図 8)



#### IV 考 察

市川市では乳幼児のむし歯予防を目的に、妊婦、10～11か月児、2～4歳と年齢別に歯科健康教育事業を実施している。

今回の集計から、1歳6か月児歯科健康診査以前の歯科健康教育事業の参加者は、仕上げみがきの習慣が定着していること、母乳摂取や哺乳びんの使用がむし歯と関係性があることへの意識が高いことが伺えた。今後も歯みがき習慣の大切さを中心に、家族構成や生活リズム、食生活、地域性など口腔の環境以外にもさまざまな要因をふまえて、保護者の不安や負担を考慮し、一方的に指導する押し付けではなく、実行可能な助言となるような支援をしていきたい。

年齢によっては「仕上げみがきを嫌がるが、抑えてでもみがいたほうがよいか」「仕上げみがきを嫌がっているが、無理強いをするとトラウマになるのではないか」「児を泣かせたくない」などと嫌がる児に対して、どのようにアプローチするかわからない様子の保護者も多く、保護者自身が不安や負担に感じていることも考えられる。仕上げみがきの必要性はわかっているが、児が嫌がってしまうとできないのも現状ではないだろうか。

事業を企画、実施していくうえで、限られた人員で経費をかけずに効果をあげることが求められているなか、どの時期にどのような支援をしていくか、検証することの大切さを改めて感じた。また、今後も引き続き、歯科健康教育の参加経験者のむし歯の罹患状況や歯みがき習慣などを追跡していきたい。

# フッ化物洗口実施校の意識調査を実施して

茂原市

○野口純子 北田つねこ

## I 目的

当市においてのフッ化物洗口実施施設は公立保育所 10 園、私立保育園 2 園、公立小学校 4 校ある。このうち小学校 1 校（N 小学校）は平成 18 年度からフッ化物洗口を開始し、5 年が経過した。そこで、今後、市内小学校全校にフッ化物洗口事業を普及するために N 小学校の児童及び保護者に対して意識調査を実施し、その集計結果から推進方法を検討する。

## II 方法

保護者には児童を通してアンケートを配布し（別紙 1）、1 週間後に児童を通して回収した。児童については学校でアンケート（別紙 2）を回答してもらい回収した。なお、低学年は学級担任が質問事項を読み上げ、児童本人が該当箇所に○をつけた。

## III 結果

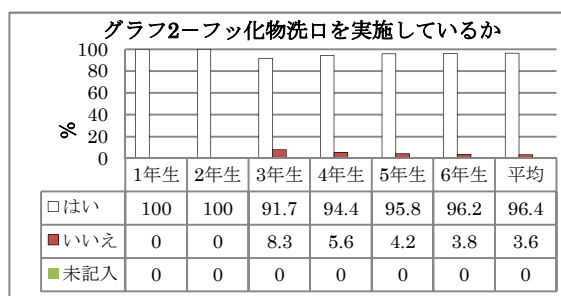
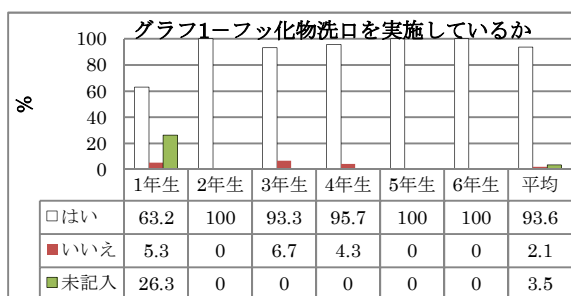
アンケート回収数は児童 141 名、保護者 110 世帯であった。回収率は児童、保護者共に 100% である。

### グラフ 1ー学校でフッ化物洗口を行っていますか【児童】

はい：132 名（93.6%） いいえ：3 名（2.1%） 未記入：5 名（3.5%）

### グラフ 2ーお子さんは現在、学校でフッ化物洗口を実施していますか【保護者】

はい：107 名（96.4%） いいえ：4 名（3.6%） 未記入：0 名

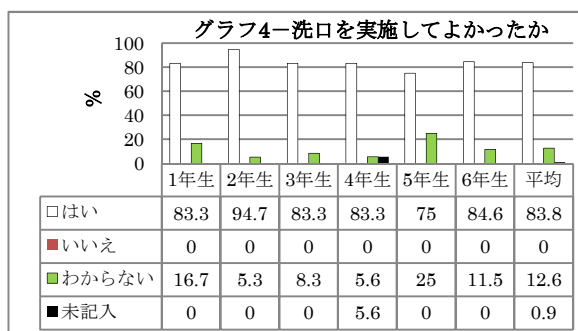
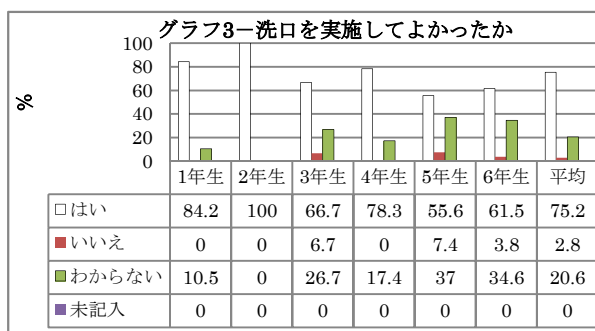


### グラフ 3ーフッ化物洗口を行ってよかったですか【児童】

はい：106 名（75.2%） いいえ：4 名（2.8%） わからない：29 名（20.6%） 未記入：0 名

### グラフ 4ーフッ化物洗口を実施してよかったですか【保護者】

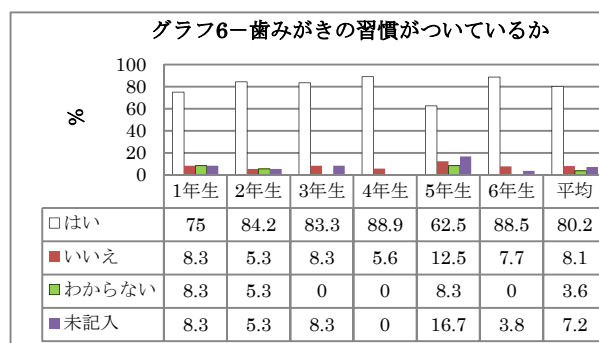
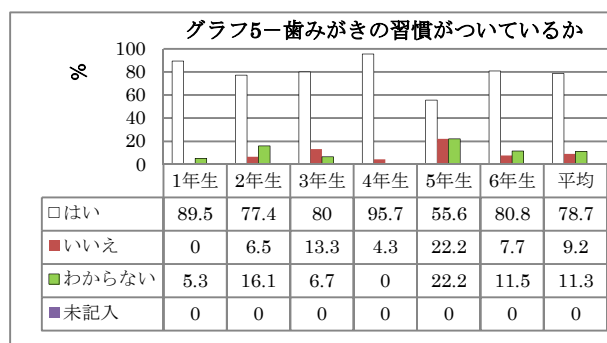
はい：93 名（83.8%） いいえ：0 名 わからない：14 名（12.6%） 未記入：1 名（0.9%）



グラフ 5ー食べた後は歯みがきの習慣がついていますか【児童】

はい : 111名 (78.7%) いいえ : 13名 (9.2%) わからない : 16名 (11.3%) 未記入 : 0名  
 グラフ 6ーお子さん自身、家庭で歯みがきの習慣がついていますか【保護者】

はい : 89名 (80.2%) いいえ : 9名 (8.1%) わからない : 4名 (3.6%) 未記入 : 8名 (7.2%)



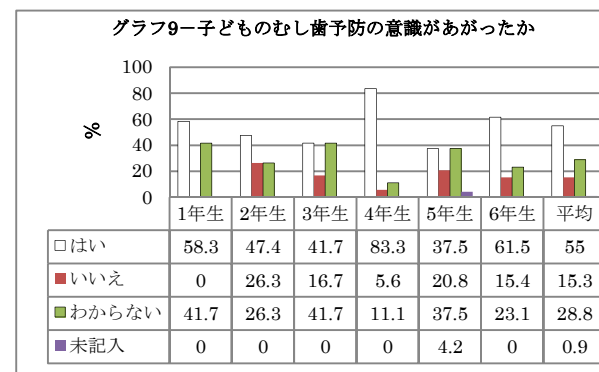
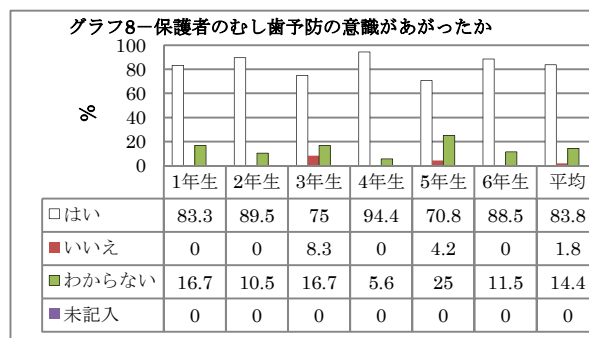
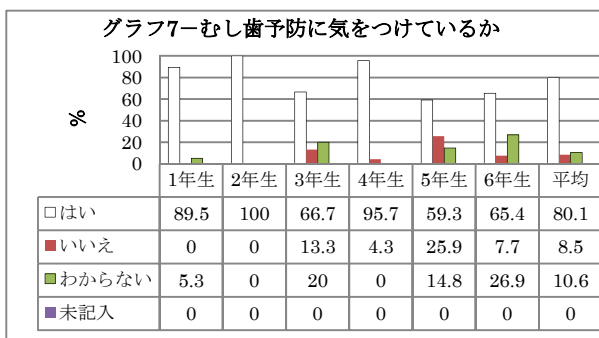
グラフ 7ーむし歯予防に気をつけていますか【児童】

はい : 113名 (80.1%) いいえ : 12名 (8.5%) わからない : 15名 (10.6%) 未記入 : 0名  
 グラフ 8ー保護者の方はむし歯予防の意識が上がりましたか【保護者】

はい : 93名 (83.8%) いいえ : 2名 (1.8%) わからない : 16名 (14.4%) 未記入 : 0名

グラフ 9ーお子さん自身のむし歯予防の意識が上がりましたか【保護者】

はい : 61名 (55.0%) いいえ : 17名 (15.3%) わからない : 32名 (28.8%) 未記入 : 1名 (0.9%)

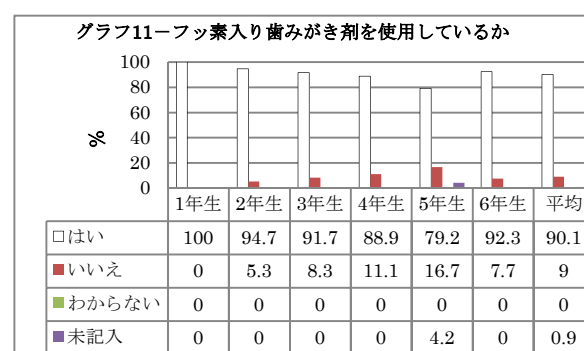
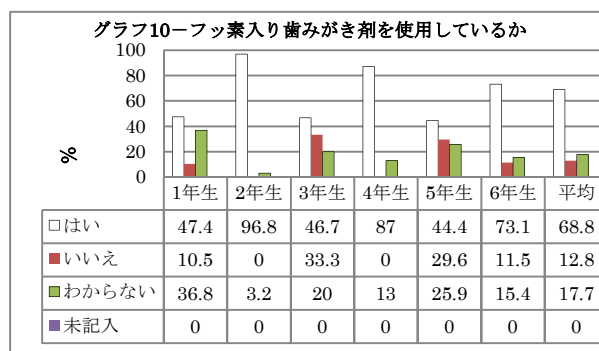


グラフ 10ーフッ素が入った歯みがき剤を使っていますか【児童】

はい : 97名 (68.8%) いいえ : 18名 (12.8%)  
 わからない : 25名 (17.7%) 未記入 : 0名

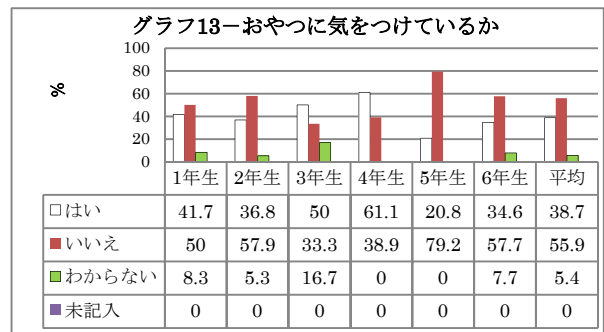
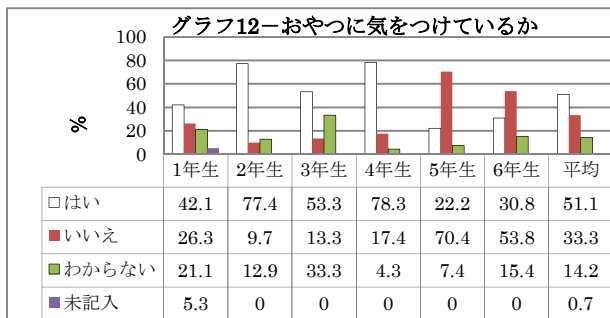
グラフ 11ーお子さんはフッ素入り歯みがき剤を使っていますか【保護者】

はい : 100名 (90.1%) いいえ : 10名 (9.0%)  
 わからない : 0名 未記入 : 1名 (0.9%)



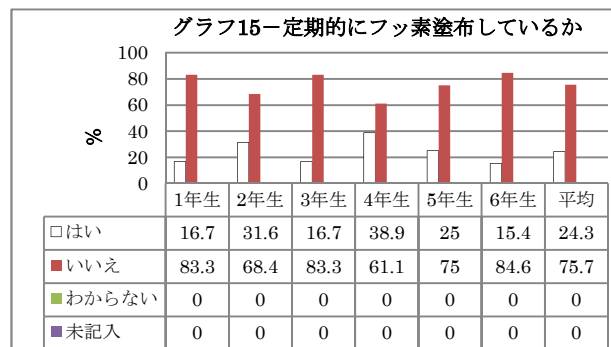
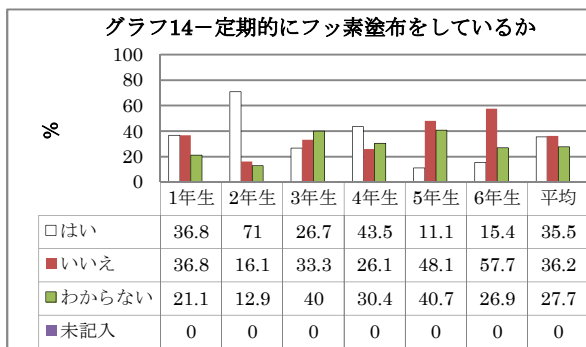
グラフ 12ーあまいおやつや飲み物に気をつけていますか【児童】

はい：72名 (51.1%) いいえ：47名 (33.3%) わからない：20名 (14.2%) 未記入：1名 (0.7%)



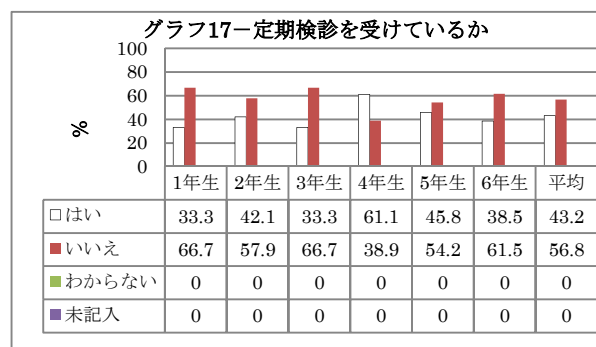
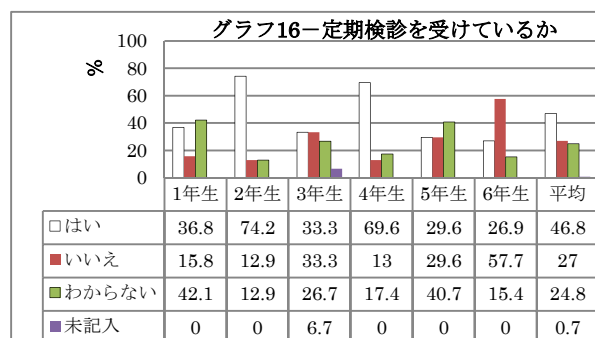
グラフ 14ー歯医者で年に1～2回フッ素を塗ってもらっていますか【児童】

はい：50名 (35.5%) いいえ：51名 (36.2%) わからない：39名 (27.7%) 未記入：0名



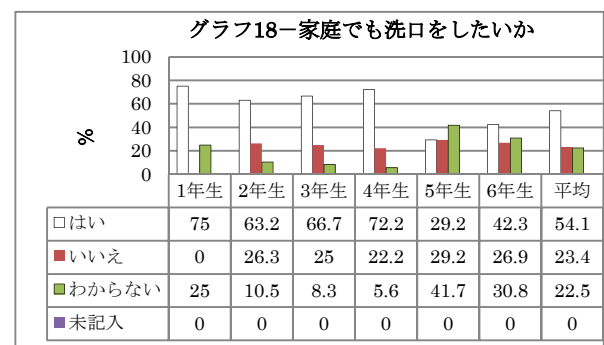
グラフ 16ー歯医者で年1回、検診を受けていますか【児童】

はい：66名 (46.8%) いいえ：38名 (27.0%) わからない：35名 (24.8%) 未記入：1名 (0.7%)



グラフ 18ー家庭でフッ化物洗口を実施してみたいですか【保護者】

はい：60名 (54.1%) いいえ：26名 (23.4%)  
わからない25名 (22.5%) 未記入：0名



#### IV 考 察

・グラフ 1、2 より「フッ化物洗口を実施しているか」の設問に児童のアンケートでは1年生は「未記入」が多かったが1年生保護者の回答から100%実施していることがわかる。

・グラフ 3、4 より「フッ化物洗口を実施してよかったか」の設問について保護者と児童の回答を平均値で比較してみると「はい」と回答した割合が保護者は83.8%、児童は75.2%で、「いいえ」と回答した保護者はいなかったが児童は2.8%おり、保護者としてはむし歯予防の効果が期待できるのでよかったと答えている。児童はフッ素洗口に対するわずらわしさがあるようだ。

また、学年別に見ると「はい」と答えた割合が多かったのは親子共に2年生であり、「いいえ」と答えた割合の高い学年に着目してみると、5年生が7.4%と一番高率で、「わからない」と回答した割合が多かったのも5年生保護者であった。

・グラフ 5、6 より「歯みがきの習慣がついているか」の設問では「はい」との回答が児童78.7%、保護者80.2%とあまり差は見られなかったが、学年別に見ると児童では4年生が95.7%と多く、保護者も88.9%と4年生が多かった。「わからない」と答えた児童が平均11.3%で、特に5年生は22.2%と他学年より高率であり、また5年生の保護者も未記入が16.7%と平均値7.2%に比較し、多かった。

・グラフ 7、8、9 より「むし歯予防に気をつけているか」の設問では「はい」と答えた割合が2年生、4年生は多く、5年生は59.3%と一番低かった。さらに「保護者のむし歯予防の意識が上がったか」の設問にも「はい」と答えた割合が70.8%、保護者に対して「子どものむし歯予防の意識があがったか」の設問にも「はい」と答えた割合が37.5%とすべて一番低率であったのが5年生保護者であったのに対し、4年生保護者はどちらも他学年より高率であった。

・グラフ 10、11 より「フッ素入り歯みがき剤を使用しているか」の設問では保護者は把握しているが児童は「わからない」と回答している割合が17.7%と、保護者任せになっているようだ。

・グラフ 12、13 より「おやつに気をつけているか」の設問では5年生の70.4%が「いいえ」と答え、また5年生の保護者も「いいえ」の回答が79.2%と他学年に比べ最も高率であり、おやつの管理が悪いことが考えられる。

・グラフ 14、15、16、17 より「歯科医院で定期的にフッ素塗布を実施しているか」及び「定期検診を受けているか」の設問では「わからない」と回答した保護者はいなかったが、児童は前者の設問で27.7%、後者の設問で24.8%が「わからない」と答えており、「定期的に」という定義が難しかったことと保護者任せになっていることも考えられる。

・グラフ 18 より「家庭でもフッ化物洗口を実施したいか」の設問には平均値54.1%と半数以上の保護者が「はい」と答えているが、「いいえ」または「わからない」と回答した保護者は家庭で実施するには難しい、あるいは負担があると感じているのではないかと推測する。

今回の意識調査では各設問において保護者と児童の回答に極端なギャップはなかったようだが、学年毎にみると親子共に5年生の意識が低いことがわかった。

小学校高学年になると保護者も手を離しがちで、子ども任せになる年齢になるためこの時期の指導は大切になってくる。現在、5年生の巡回歯科指導の内容は歯肉炎の症状や予防方法等について講話と実習を行っているが、それに加えおやつも含めた食生活の指導等にも重点をおいていく必要があると感じた。

また、フッ素入りの歯みがき剤の選択は親子で共通認識できるよう話したり、学校でのフッ化物洗口実施と共に家庭での歯みがきの習慣や定期検診、フッ素塗布の大切さについて、家族でも話



し合ってもらえるよう巡回歯科指導を通して発信していきたい。

N小学校での6年生におけるう蝕罹患率についてはフッ化物洗口の実施前の平成18年は81.6%だったが、平成23年度には31.3%と50.3%も減少しており、フッ化物洗口の成果が出ていると考える。学校と家庭の両輪でむし歯予防への意識が向上しており、未実施校にもフッ化物洗口を実施できるよう情報提供し、市内全小学校実施に努めたい。

# フッ化物洗口事業実態調査

保護者用

別紙 1

次の設問に該当するところに○をつけてお答えください

1	お子さんは現在、学校でフッ化物洗口を実施していますか	はい	いいえ	
1番で「はい」と答えた方は2番へ 「いいえ」と答えた方は3番へお進みください。				
2	フッ化物洗口を実施してよかったですか	はい	いいえ	わからない
3	お子さん自身、家庭で歯みがきの習慣がついていますか	はい	いいえ	わからない
4	保護者の方はむし歯予防の意識が上がりましたか	はい	いいえ	わからない
5	お子さん自身のむし歯予防の意識が上がりましたか	はい	いいえ	わからない
6	お子さんはフッ素入り歯磨き剤を使っていますか	はい	いいえ	わからない
7	お子さんは歯科医院で定期的にフッ素を塗ってもらっていますか	はい	いいえ	わからない
8	お子さんは歯科医院で定期的に検診を受けていますか	はい	いいえ	わからない
9	おやつ（飲み物も含む）に気をつけていますか	はい	いいえ	わからない
10	家庭でフッ化物洗口を実施してみたいですか	はい	いいえ	わからない

アンケートご協力ありがとうございました

# フッ化物洗口アンケート

〇年 ( ) 年 別紙2

つぎの質問のこたえにあてはまるところに○をつけてください

1	がっこう <small>か ぶつせんこう おこな</small> 学校でフッ化物洗口を行っていますか	はい	いいえ	
ばん <small>こた ひと ばん</small> 1番で「はい」と答えた人は2番へ 「いいえ」と答えた人は3番へ進んでください				
2	<small>か ぶつせんこう おこな</small> フッ化物洗口を行ってよかったですか	はい	いいえ	わからない
3	<small>た あと は しゅうかん</small> 食べた後は歯みがきの習慣がついていますか	はい	いいえ	わからない
4	<small>ば よぼう き</small> むし歯予防に気をつけていますか	はい	いいえ	わからない
5	<small>そ はい は つか</small> フッ素が入った歯みがきざいを使っていますか	はい	いいえ	わからない
6	<small>の もの き</small> あまいおやつや飲み物に気をつけていますか	はい	いいえ	わからない
7	<small>はいしゃ ねん かい そ め</small> 歯医者で年に1～2回フッ素を塗ってもらっていますか	はい	いいえ	わからない
8	<small>はいしゃ ねん かい けんしん う</small> 歯医者で年1回、検診を受けていますか	はい	いいえ	わからない

アンケートご協力ありがとうございました

# フッ化物洗口事業の効果について

木更津市 ○地曳ハルミ

## I 目 的

当市では、永久歯のむし歯予防を目的に、平成 20 年度からフッ化物洗口事業を開始し、平成 20 年度小学校 1 校（児童数 100 人）、平成 21 年度中学校 1 校（生徒数 42 人）、平成 22 年度小学校 1 校（児童数 96 人）、平成 23 年度小学校 1 校（児童数 67 人）と毎年 1 校ずつ増やし、現在小学校 3 校・中学校 1 校で継続実施をしている。

平成 20 年度から実施している小学校では丸 4 年が経過していることから、フッ化物洗口による効果を把握するため、永久歯のむし歯の増加状況及び 12 歳児一人平均むし歯数の経年変化を調査した。

## II 方 法

児童の定期健康診断結果から、永久歯の未処置歯・処置歯・喪失歯数を把握し、洗口開始前に入学した児童と洗口開始後に入学した児童の永久歯のむし歯の増加状況を比較した。調査対象は、平成 16 年度入学の児童と平成 20 年度入学の児童とした。12 歳児一人平均むし歯数も同診断結果から把握し、経年の比較を行った。

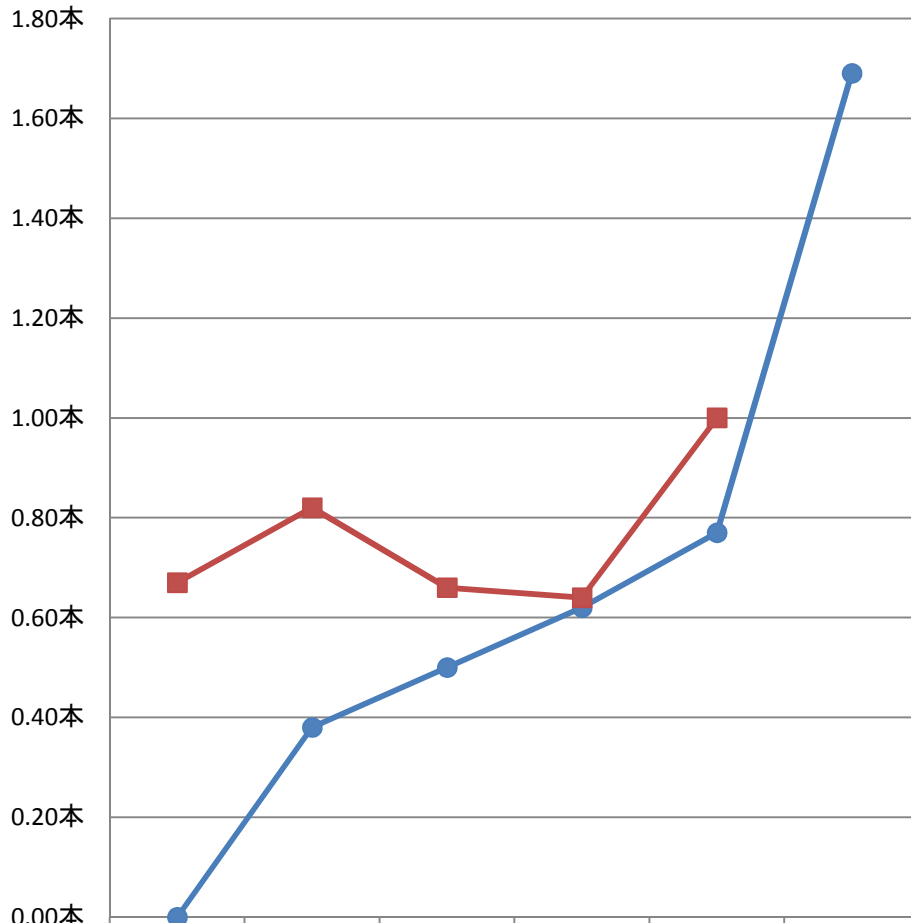
また、洗口開始後に入学した児童の中で、入学してからむし歯に罹患した歯については、洗口開始前に萌出した歯か、または洗口開始後に萌出した歯かを区別するため、児童一人ひとりの個票（図ー1）を作成し経過を観察した。

## III 結 果

平成 16 年度入学児童の永久歯のむし歯の増加状況を見ると、入学時から 6 年生までの間に、一人平均約 1.7 本のむし歯の増加が見られた。一方、フッ化物洗口開始後の平成 20 年度入学児童のむし歯の増加状況は、5 年生までの間で一人平均 0.33 本の増加であった。

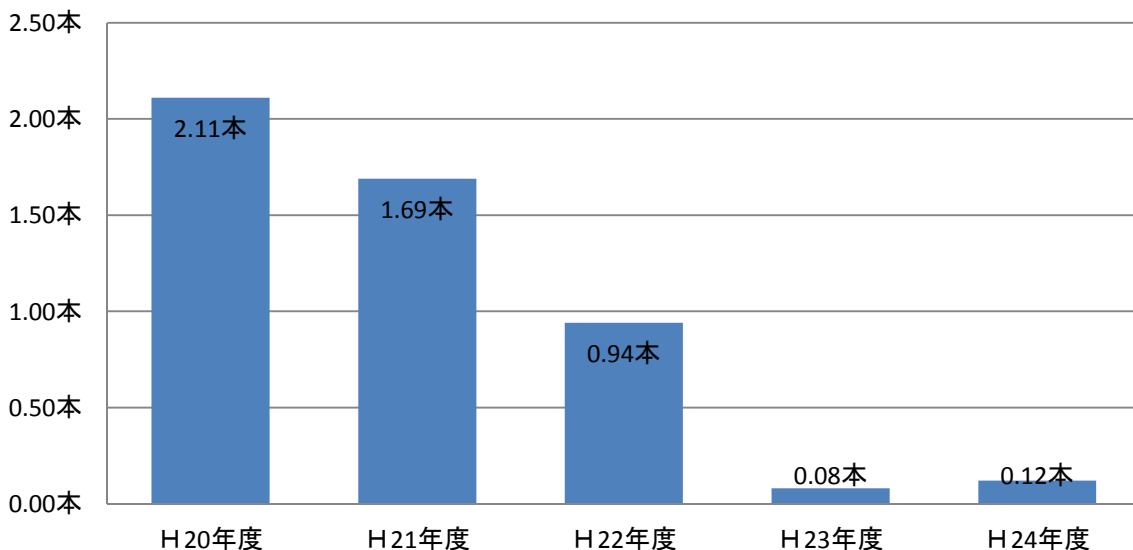
また、小学 6 年生における永久歯の一人平均むし歯数を経年で見ると、フッ化物洗口を開始した年の翌年度の平成 21 年度以降は減少し続けていることがわかった。平成 21 年度の 6 年生は 5 年生の時の 1 年間、平成 22 年度の 6 年生は 4・5 年生の 2 年間、平成 23 年度の 6 年生は 3・4・5 年生の 3 年間、平成 24 年度の 6 年生は 2・3・4・5 年生の 4 年間フッ化物洗口を実施した結果、永久歯でむし歯に罹患した歯はすべて洗口開始前に萌出した歯であることが、個票による調査でわかった。また 6 年生以外の学年でも、永久歯でむし歯に罹患した歯を個票で確認すると、6 年生同様、洗口前に萌出した歯であることがわかった。

## 永久歯一人平均むし歯数の推移



平成16年度入学生	0.00本	0.38本	0.50本	0.62本	0.77本	1.69本
平成20年度入学生	0.67本	0.82本	0.66本	0.64本	1.00本	

## 12歳児一人平均むし歯数の推移



#### IV 考 察

フッ化物洗口の予防効果が明瞭に表れるのは、小学校入学時から洗口を開始した場合5～6年生以降と言われている。その点を考慮し今回は平成20年度から開始した学校のみ、永久歯のむし歯の増加状況と12歳児一人平均むし歯数の経年変化でその効果を確認した。その結果フッ化物洗口を開始してからのむし歯増加は、洗口を実施していない時期と比べると明らかに緩やかになっており、しかもむし歯に罹患した歯はすべてその児童がフッ化物洗口を開始する前に萌出した歯であったことから、フッ化物洗口が永久歯のむし歯予防の有効な手段の一つになっていることがわかった。

しかし、これはあくまでも1校の結果にすぎない。またこの学校は、歯科保健教育にも力を入れているので、相乗効果もあると思われる。今後は他の実施校においても経年のむし歯の増加状況等を確認しながら、効果判定を実施していきたい。

#### 参考 (図-1)

永久歯う蝕罹患調査票											
氏名		年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度
性別	男・女	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
洗口以前 萌出歯	① 萌出歯数										
	② むし歯経験歯数										
洗口開始 後萌出歯	③ 萌出歯数										
	④ むし歯経験歯数										
現在歯数 (①+③)											
う歯 (むし歯経験歯) 総数 (②+④)											
<p>&lt;記入の仕方&gt;</p> <p>洗口前既萌出歯・・・数字に黒○      未処置歯・・・・・・×</p> <p>洗口後萌出歯・・・数字に赤○      処置歯・・・・・・○</p> <p>むし歯で抜歯・・・・・・△</p>											

# 災害時保健活動マニュアルにおける歯科保健活動

市原市 ○藤田 美由紀

高澤 みどり 金子 直美

## I. 目的

当市は、関東有数の広域市であり、市内全域が同様に被災するのではなく一部の地域のみが被災する可能性が高い。また海岸部の石油化学コンビナート地帯や養老川流域、養老溪谷周辺など、その地理的条件により、様々な災害が想定される。さらに災害発生時に交通事情や職員の被災状況等により、参集できる職員も平常時とは異なる。これらの理由により、発災時には保健活動統括部門が被災状況に応じた評価・調整を行い、人員配置・交替を含めた勤務体制、優先順位を整理した保健活動体制を構築することが望ましい。そのために保健活動の拠点保健センターとし、各地域の保健情報を集約して他部門と連絡、連携を図りながら、必要な保健活動体制を構築するため「市原市災害時保健活動マニュアル」の作成に取り組んだ。

また過去の大規模災害時において、水や口腔ケア用具の確保が困難だったことや長引く避難所生活で誤嚥性肺炎、歯周疾患の増悪がみられた。さらに支援物資による食事や間食がお菓子やインスタント食品、ジュースなどに偏ることでむし歯の増加も心配された。そして、義歯の紛失や不具合により食事や会話のみならず身体活動への影響も懸念された。このように大規模災害時には環境の変化に伴い平常時とは異なるリスク管理が必要になる。その対応として発災後、早期の歯科保健医療活動が重要となるため、平常時から災害時の備えと関係者間の理解、連携を深め市民の健康危機管理に役立てるよう「市原市災害時保健活動マニュアル」の中に「歯科保健活動」を位置づける。

## II. 方法

保健センター職員（保健師 6 名、管理栄養士 1 名、歯科衛生士 1 名）による検討会を設け、全国保健師長会が作成した「大規模災害における保健師の活動マニュアル」（平成 18 年 3 月）を参考に、「市原市地域防災計画」、「救護所の医療活動マニュアル」、「市原市避難支援プラン全体計画」等との整合性を図り保健活動従事者の実践マニュアルを作成した。作成に際し千葉大学 大学院看護学研究科 宮崎美砂子先生の御助言のもと平成 23 年 4 月から平成 24 年 3 月にかけて、全 36 回の検討と関係課との調整を行った。

## III. 結果

「市原市災害時保健活動マニュアル」を策定する中で「歯科保健活動」についての検討をした。その結果、災害時の歯科保健活動の重要性を考慮し「歯科保健活動」をひとつの項目として位置づけた。

この中で、歯科保健医療活動従事者は少数であることが見込まれるため現場でのアセスメントを実施したうえ、優先順位を整理して歯科保健医療活動を行うこととした。

発災後は時間の経過とともに活動の内容は変化することが予測され、フェーズ0では、医療救護活動が中心になるが、フェーズ1以降は早期に感染及び廃用性症候群等の予防活動に取り組み、さらにフェーズ2以降では、県や協力市町村等の支援を得ながら地域活動を行うためのコーディネートの役割を担う。随時、保健活動統括部門の指示を仰ぎながら歯科保健医療体制を整理、運営していくこととし、発災時の関連機関との関係図、行政歯科衛生士の役割、平常時の活動や歯科保健活動必要物品などについて明記した。

#### IV. 考察

指定都市を除くほとんどの市町村で「保健活動マニュアル」は未整備のため、都道府県や指定都市の災害時保健活動マニュアルを参考に市町村としての活動についての検討を重ねた。また歯科保健活動についても、保健活動マニュアル全体の中で整合性を図りながら「東日本大震災」「新潟県中越地震」等の歯科保健活動等を参考に検討した。マニュアルは策定に至ったが今後も県、歯科医師会を始めとする関係機関との連携強化に努めることや、保健活動従事者は研修や情報収集により専門職として対応力を向上させることなどが必要である。

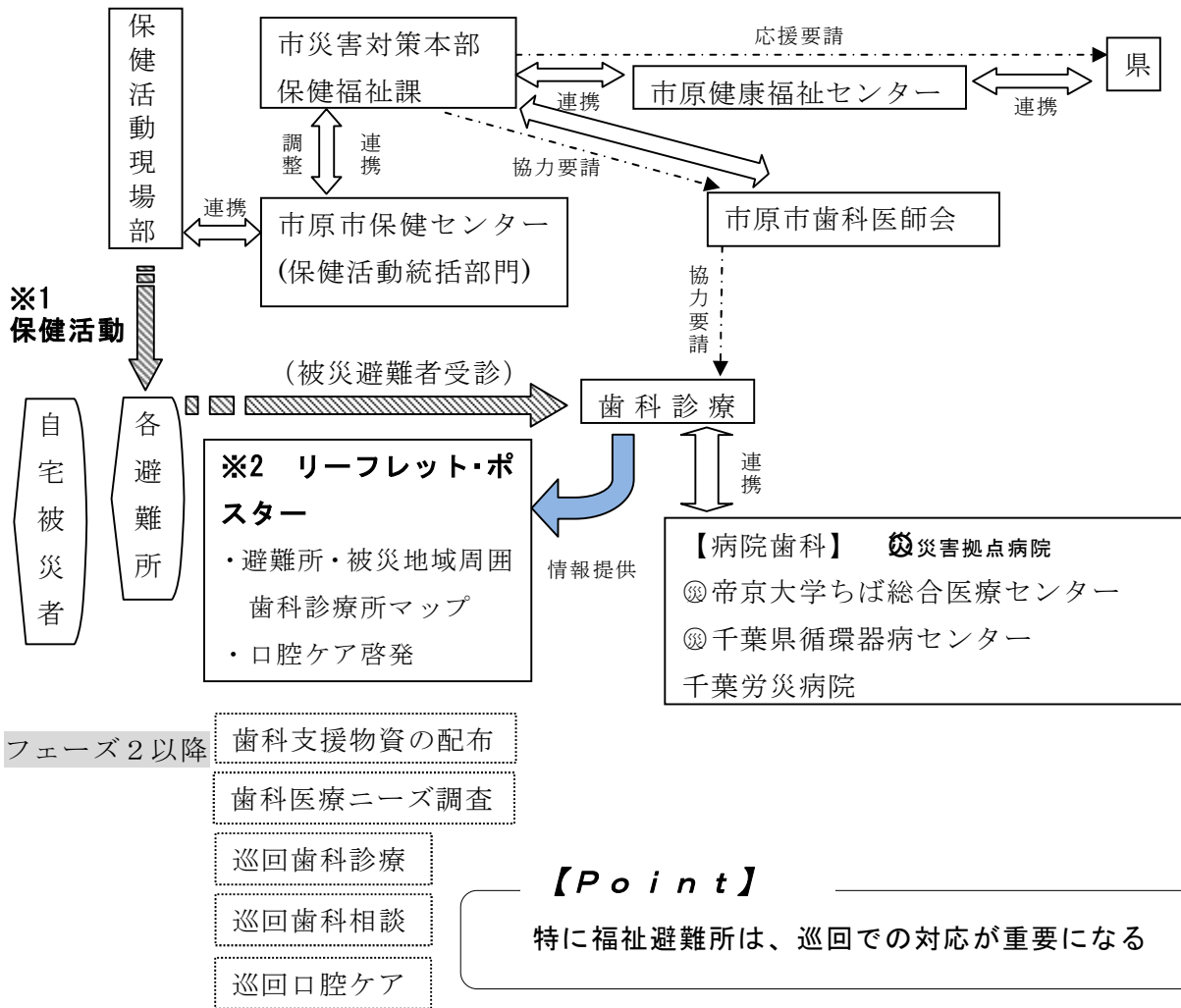
「市原市災害時保健活動マニュアル」は今後、職員間の研修を実施しながら随時見直しをしていく予定である。いつ、どこでどのような災害が起こるかの予測は難しい状況である。平常時から大規模災害時へ備え、市民の健康危機管理に対応できるようにさらに準備を進めていきたい。



### Ⅲ大規模災害時における保健活動

#### 4. 歯科保健活動

災害時には被災者の歯科疾患の重症化、咀嚼機能の低下、呼吸器感染症の発生の予防のため歯科医療救護活動及び歯科保健活動が必要となる。ここでは、歯科保健に関する初動体制や対応、歯科保健活動必要物品などを明記する。



#### 【 歯科保健医療支援活動 】

※1 保健活動現場部門保健師等がアセスメントを行い必要に応じて、歯科医療機関情報の提供や歯科受診勧奨、専門職による口腔ケア及び口腔ケア物資の確保を統括部門に調整要望する。また、専門的口腔ケア実施時には個別相談票に記録をする。

※2 ポスター、リーフレットで歯科医療機関の開設状況や避難所への巡回診療情報、歯科衛生士による巡回口腔ケア等の情報提供をする。また、誤嚥性肺炎や歯周疾患、う歯の予防など健康情報の啓発にも利用していく。

1) 被災者支援に関わる歯科保健医療体制の課題

災害支援時には派遣担当者間の目的意識の共有が重要となる

(1) 巡回歯科診療に関わるコーディネート役

⇒市歯科医師会が県歯科医師会と連携

(2) 県・市・歯科関係機関との連携、役割の明確化

⇒平常時からの協力体制が重要

(3) 各支援スタッフとの連携

⇒保健師、看護師、介護職の協力が重要

2) 行政歯科衛生士の役割

①住民の口腔保健に関するニーズを把握し、情報収集及び提供をする。

②住民へ口腔保健対策の重要性を周知し、必要な知識の普及啓発をする。

③住民の健康づくり支援に関わる関係者と連携、情報共有し必要な対策を検討する。

3) 被災者の想定される問題点と解決策

想定される問題点	解決策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難者の口腔の問題が把握できない</li> <li>・歯科治療の必要な人が把握できない</li> <li>・巡回歯科医療チームがうまく活用できない</li> </ul>	口腔アセスメント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔ケアグッズが整理されていないため、個々に応じた口腔ケアが適切に行われない</li> <li>・子ども用歯ブラシ・仕上げ用歯ブラシがない</li> <li>・入れ歯のケース・洗浄剤・安定剤がない</li> <li>・災害前に使用していた清掃補助用具が使用できない</li> <li>・フッ化物配合歯磨剤などの使用ができない</li> </ul>	物資の仕分け配布
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人前で歯みがきしにくい</li> <li>・水が少なく、歯みがきや入れ歯の洗浄ができない</li> <li>・不安で入れ歯が外せない</li> <li>・支援物資のお菓子をだらだら食いしてしまう</li> <li>・飲み物に、ジュースやスポーツドリンクが多い</li> </ul>	健康教育 <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔内の清潔保持</li> <li>・う歯の予防</li> <li>・歯周病の予防</li> <li>・誤嚥性肺炎予防</li> <li>・健口体操</li> <li>・唾液腺マッサージ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期の清潔不良で歯肉炎が多い</li> <li>・入れ歯を失くした（放置してきた）</li> </ul>	巡回歯科診療 受診勧奨

**【Point】**

- ・保健活動統括部門に問題提起し情報を共有化することが重要である
- ・仮設住宅入居者へもアセスメントの実施が必要である

#### 4) 口腔保健活動必要物品

	歯ブラシ（大人用）		歯ブラシ（学童用）		歯ブラシ（幼児用）
	紙コップ		ウエットティッシュ		スポンジブラシ
	ディスポグローブ		マスク		速乾性手指消毒薬
	洗口剤		ガーゼ		バケツ（義歯洗浄用）
	ゴミ袋		ペンライト		ティッシュペーパー
	歯科相談票		ペットボトルの水（うがい及び義歯洗浄用）		
	ボールペン		うがい吐き出し用容器（発砲スチロール性のどんぶり等）		
	マジック		口腔ケア啓発用リーフレット		

#### 5) 平常時の体制整備

- ①市防災計画、本マニュアル等に歯科保健活動を位置付ける。また、災害時にすぐに活動できるよう、平常時から対象者の把握方法など関係職員や関係課と検討し、情報を共有する。
- ②防災備蓄をすすめる。

#### 6) 防災備蓄としての「口腔ケア製品」

	歯ブラシ（大人用）		歯ブラシ（子ども用）		歯ブラシ（仕上げ用）
	入れ歯洗浄剤		ノンアルコール系マウスウォッシュ		
	入れ歯安定剤		啓発用パンフレット ※		

※ 高齢者向けは誤嚥性肺炎予防に関するもの。子ども向けは、う歯予防に関するもの。拡大してポスターにできるものが望ましい

## 2歳児むし歯予防教室事業の評価

千葉市 ○菊地薫 遠藤昌子 柴田恵美子 高橋加奈子 山中香苗 花澤いづみ  
石川裕美子

### I 目的

当市では、平成5年度の3歳児健康診査のう蝕有病者率が51.3%と高かったののでう蝕有病者率を減少させる目的で平成6年度より2歳児むし歯予防教室（以下「教室」と記す）を実施している。1歳6か月児健診時う蝕罹患型O2（今後う蝕になる誘因が多い）及びA・B・C（むし歯がある）と判定された児に対して、う蝕が多発する前の2歳0か月頃に、保護者による仕上げ歯みがきの仕方、甘味飲料・食品等のう蝕誘発リスクの高い間食の摂取制限、フッ化物配合歯磨剤の使用等のセルフケアが家庭でできるように個別に保健指導をし、又、歯科医院でのフッ化物歯面塗布、定期健診といったプロフェッショナルケアを受ける勧めをしてきた結果、う蝕有病者率は平成23年度22.9%となり半減した。しかし、新世紀ちば健康プランの健康目標「むし歯のある3歳児の割合を20%以下にする」という目標は美浜区（18.3%）、稲毛区（18.6%）とこの2区においては達成されたが、市全体でみると至らず又、22.9%は全国20政令指定都市中16番目という結果であった。そこで教室参加者の3歳児健診時の状況を分析し今後の教室のあり方を検討する。

### II 方法

#### 1 調査対象

平成24年4月～7月に3歳児健診を受診した2,965名の内、千葉市で1歳6か月児健診を受診し、既にむし歯があった79名の児を除く2,149名。内訳はO1 1,057名（49.1%）、O2 1,092名（50.8%）である。

#### 2 調査方法等

3歳児健康診査結果を教室参加の有無で比較し統計処理（ $\chi^2$ 検定を使う。）をした。

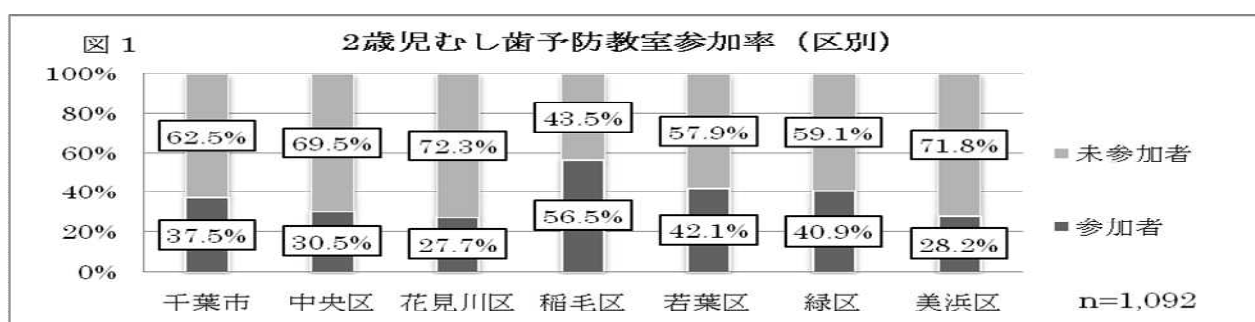
#### 3 調査項目

う蝕の有無（う蝕有病者率）、一人あたりう蝕本数、未処置歯率、処置歯率、フッ化物歯面塗布実施の状況、定期健診受診の状況

### III 結果

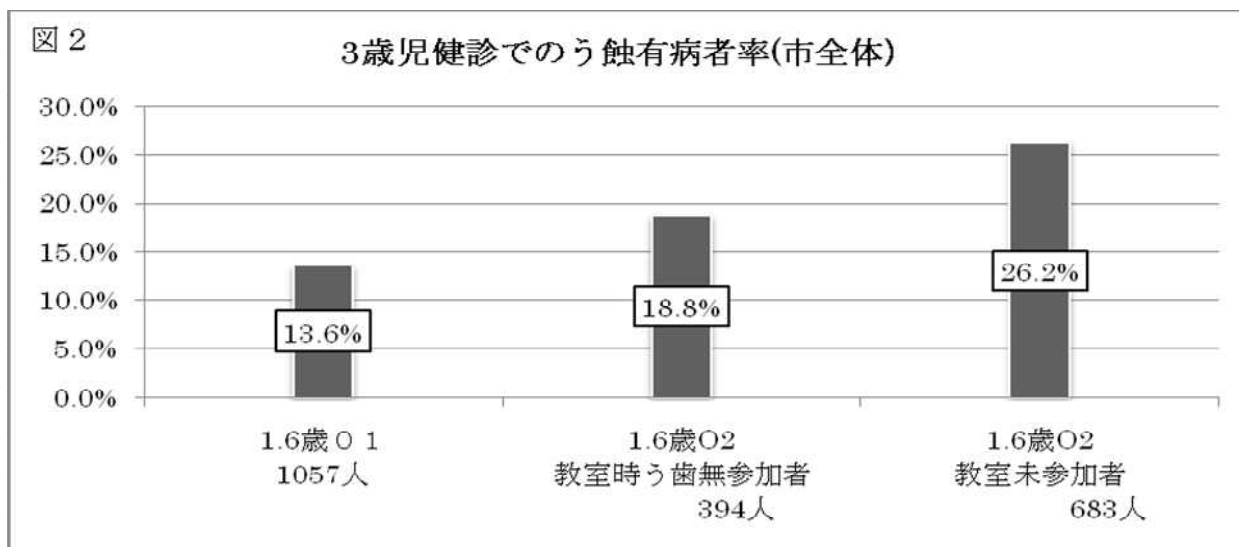
#### 1 教室参加率（図1）

市全体の参加率は、個別通知を出しているが1,092人中409人の参加37.5%と低い状況であった。区毎に比較すると、27.7%～56.5%と2倍以上の開きがあった。



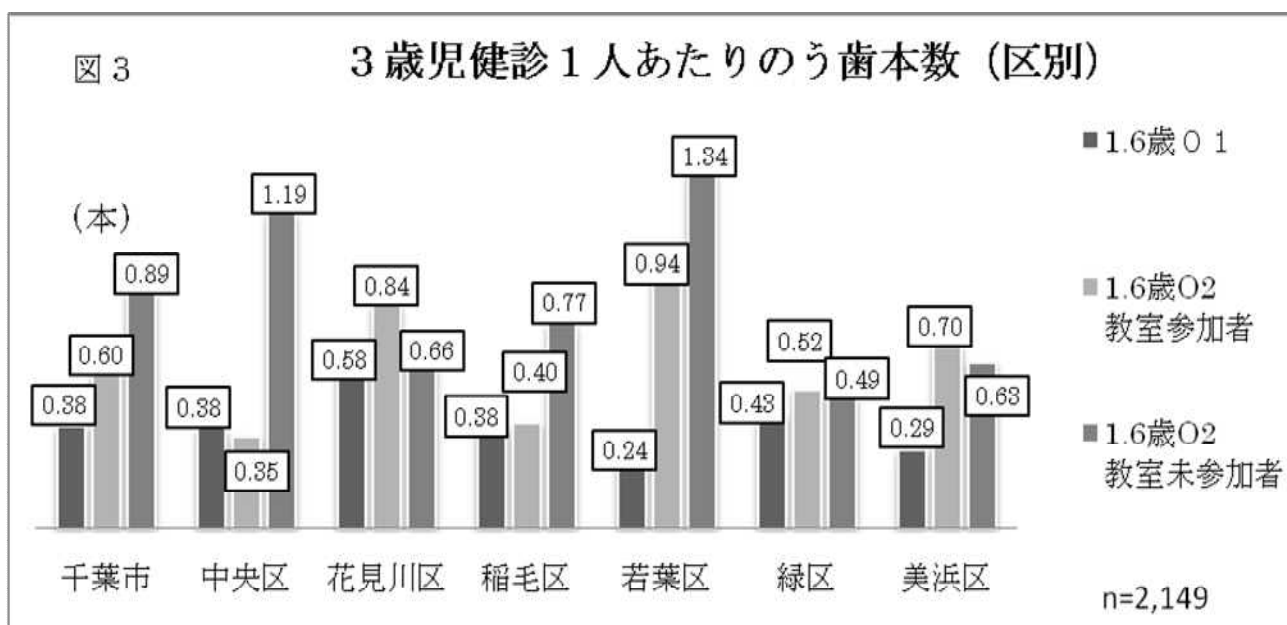
## 2 3歳児健診でのう蝕の有無（う蝕有病者率）（図2）

教室に参加した児409人の内、教室時すでにむし歯があった児15人を除く394人のう蝕有病者率は18.8%であり、教室未参加児の26.2%に比べて有意\*（ $P < 0.01$ ）に低かった。



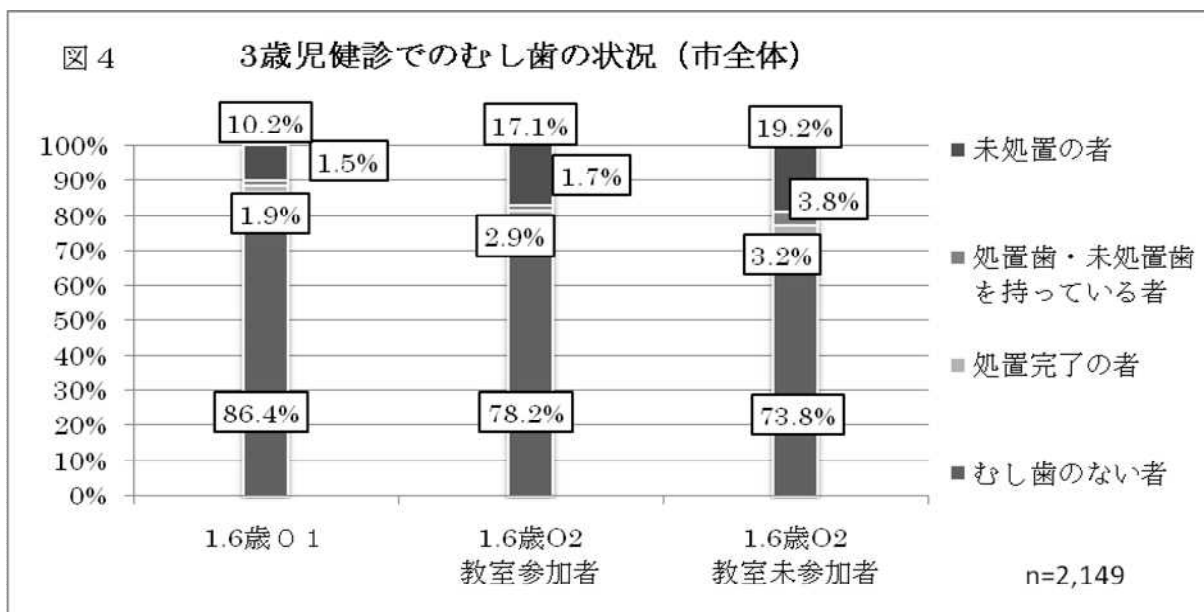
## 3 3歳児健診での一人あたりのう歯本数（図3）

市全体において、教室に参加した児が0.60本で未参加児0.89本よりう歯本数が少なかった。区別にみると、中央区、稲毛区、緑区の順で教室参加児の一人あたりのう歯本数が少なかった。



4 3歳児健診での未処置のむし歯がある者の割合（図4）

未処置者率（未処置の者と処置歯・未処置歯を持っている者）は、教室に参加した児が18.8（17.1+1.7）%であり、未参加児の23.0（19.2+3.8）%より少なかったが、有意差はなかった。



5 3歳児健診でのフッ化物歯面塗布を受けている者の割合（図5、表1）

教室に参加した児がフッ化物歯面塗布を受けている割合は44.5%であり、未参加児の34.1%より有意\*（ $P < 0.01$ ）に高かった。また、1歳6か月児健診時01だった児の38.5%と比較しても有意\*（ $P < 0.05$ ）に高かった。

教室参加児の塗布率を区別にみると、う蝕有病者率の高い若葉区（33.7%）、花見川区（36.4%）が低かった。

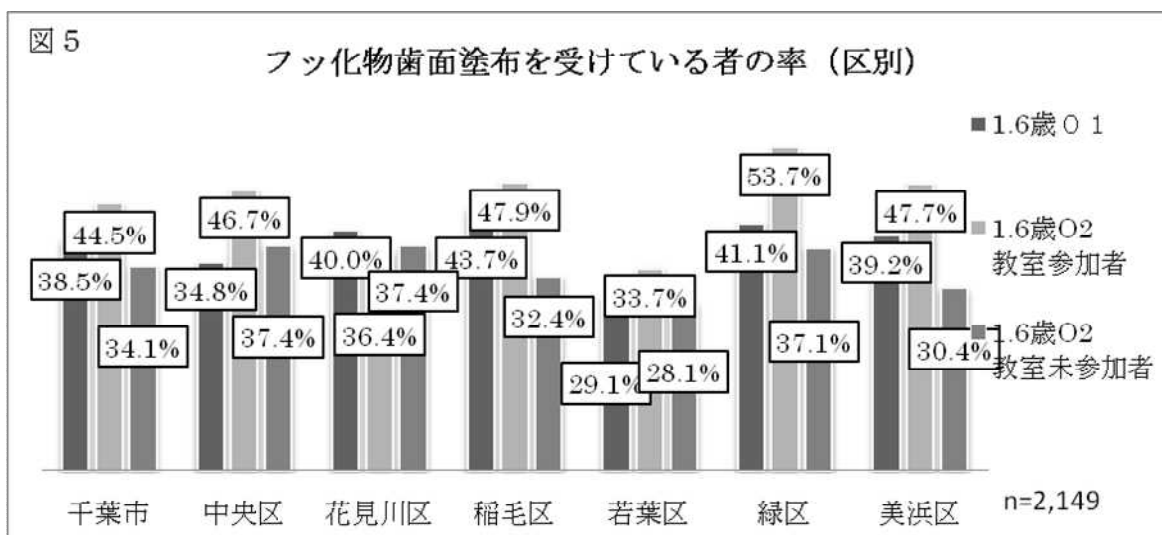
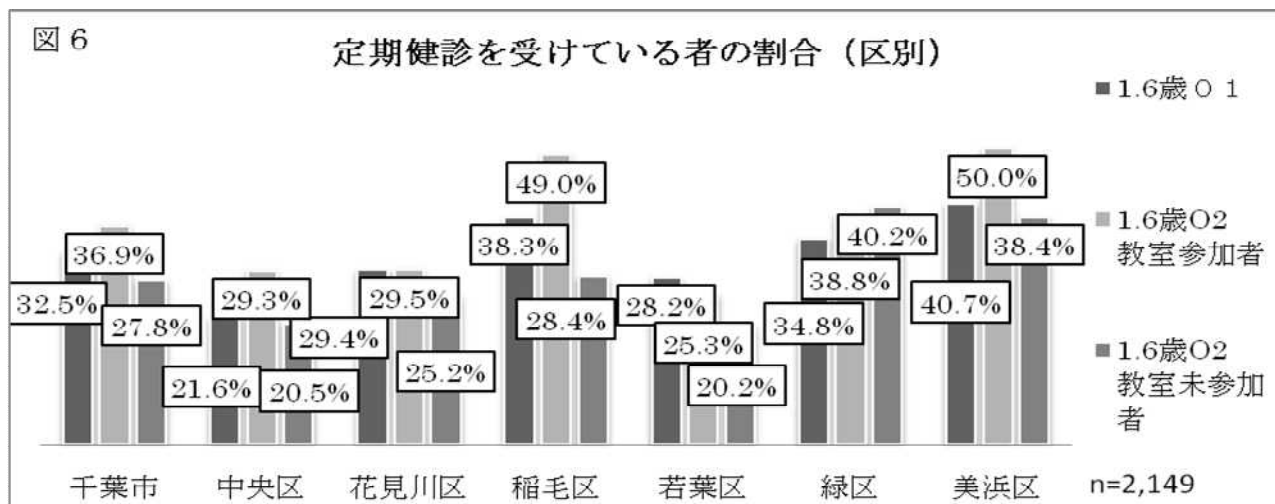


表1 平成24年4月～7月受診者における3歳児健康診査結果（%）

	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	市平均
う蝕有病者率	20.2	21.8	17.9	30.0	20.2	19.4	21.4

## 6 3歳児健診での定期健診を受けている者の割合（図6、表1）

教室に参加した児の36.9%が定期健診を受けていて、未参加児の27.8%より有意\* ( $P < 0.05$ ) に高かった。また、1歳6か月児健診時〇1だった児の32.5%と比較しても有意\* ( $P < 0.01$ ) に高かった。区別にみると、う蝕有病者率の低い美浜区(50.0%)、稲毛区(49.0%)において定期健診を受けている割合が高かった。



## IV 考察

### 1 事業評価

1歳6か月児健診において、今後う蝕になる誘因が多かった児の3歳児健診結果を、教室参加の有無で比較したところ、教室に参加した児のう蝕有病者率が有意に低く、フッ化物歯面塗布の実施率及び定期健診の受診率が有意に高かった。このことから、う蝕が多発する前の時期である2歳児に、個別で個々の児の発達、家庭環境等に合わせたう蝕予防方法を行えるよう支援する2歳児むし歯予防教室が保護者に児のう蝕を予防するための行動をとらせ、結果的に3歳児健診のう蝕有病者率を減少させることにつながったと言える。しかし、依然半数以上がフッ化物歯面塗布や定期健診を受けていないため、3歳児健診でのう蝕有病者率低下に向けた効果的な支援内容、支援方法、教室運営等の工夫が必要である。

一方、教室に参加しなかった児のう蝕有病者率は26.2%と高く、又、フッ化物歯面塗布の実施率及び定期健診の受診率は低かったことから、この群に対して積極的に保健指導を実施していく必要があることが確認できた。教室の参加率は市全体で37.5%であり、区によって2倍以上の差があることから、参加率向上にむけた取り組みも必要である。

### 2 今後の取り組み

#### 1) ハイリスク児への支援

健診から教室参加までの間にむし歯になっている児が〇2の児の3.7%いることから、教室未参加児と共にこのようなハイリスク群に対する教室以外の取り組みも検討する必要がある。

## 2) 教室対象でない児に対しての情報提供

1歳6か月児健診において、今後う蝕になる誘因が少なかったO1の児についても、6割以上がフッ化物歯面塗布や定期健診を受けておらず、3歳児健診では、13.6%にう蝕があることから、1歳6か月児健診で全員にフッ化物歯面塗布をしてくれる近隣の歯科医院情報をマップにして配布する、保健センター内に常に掲示する等、むし歯になりやすい時期に、教室に限らず様々な方法で、広くう蝕予防の情報提供を保護者にしていく必要がある。

## 3) 重症なむし歯に進行させないフォロー体制

1歳6か月児健診で既にむし歯のある児が健診受診者の2.8%であり、これらの児に対しては健診時に歯科医院への受診を勧め、教室参加を促している。しかし、教室未参加児についてはその後のフォローが行われていない場合がある。1歳6か月児が歯科治療を受けることは母子共に多くの心理的負担を伴うので、歯科治療に結びつかないケースも多く、むし歯が進行し重症化しやすい。それが又、幼児にとって歯科治療を難しくさせる原因となり、将来の歯と口の健康づくりにも悪い影響を与えることになりうる。むし歯の本数を増やさず、重症なむし歯にならないような支援方法を教室参加を促すだけでない、より個別的な事後フォロー体制を検討し事業の改善を図りたい。



# 幼児の歯科受診状況について

## ～歯みがキッズ教室でのアンケート集計結果より～

船橋市 ○小嶋康世 吉野ゆかり 八木幸代  
植田佐知子 工藤こずえ 高石郁美

### I. 目的

当市では、1歳6か月児健診、3歳児健診に加え2歳6か月児歯科検診を実施している。う蝕罹患率は表1.に示す通り2歳6か月児歯科検診から3歳児健診の間に急に上がり始め、就学時健診では3歳児健診の2.5倍のう蝕罹患率となる。3歳児健診以降行政における歯科検診の機会は就学時健診までではなく、そのため4・5歳児の口腔管理は家庭任せとなってしまっているのが現状である。

そこで「歯みがキッズ教室」に参加した4・5歳児の保護者に対象児の歯科保健行動を把握する目的でアンケート調査を行った。

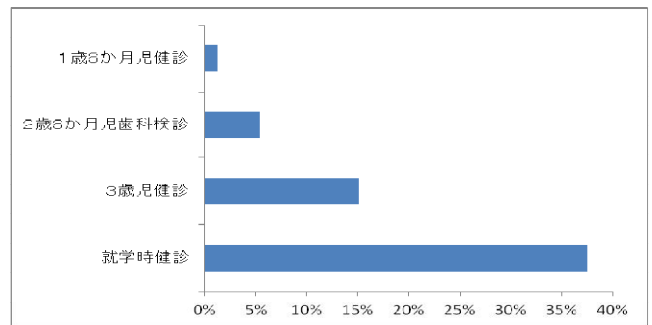


表1. H23年度う蝕罹患率

### II. 方法

中央・東部・北部・西部保健センターの歯みがキッズ教室に参加した4・5歳児の保護者に対して、歯科保健行動に関するアンケートを実施した。

アンケート項目は①歯科医院の受診歴、初診年齢、②初診理由、③継続受診の有無、④歯科医院の選択理由、⑤歯科医院でのフッ素塗布の有無、⑥（歯科医院受診歴のない児に対して）歯科検診の受診状況、である。

### III. 結果

歯みがキッズ教室参加者193名、アンケート回収は116枚（回収率60.1%）であった。

#### ① 歯科医院の受診歴、初診年齢（図1）

歯科医院を受診したことのある児は約6割であった。初診年齢は、1歳と3歳が最も多かった。

#### ② 初診理由（図2、図3）

初めて歯科受診した時の理由としては、フッ素を塗布するためという理由が約6割であった。

また、受診年齢別で見ると、0～3歳ま

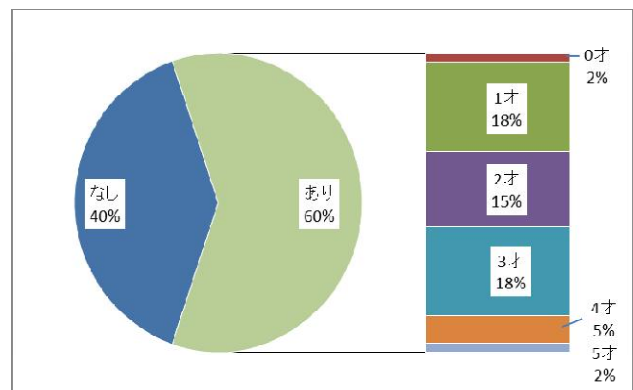


図1. 歯科医院の受診歴

ではフッ素塗布での初診が多かったが、4・5歳児になると逆転し、治療目的での初診が多かった。

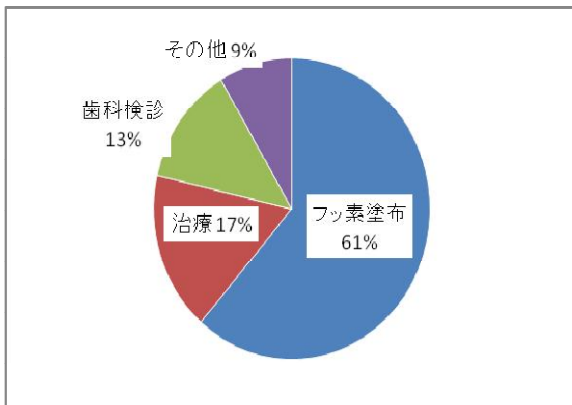


図2. 初診時の理由

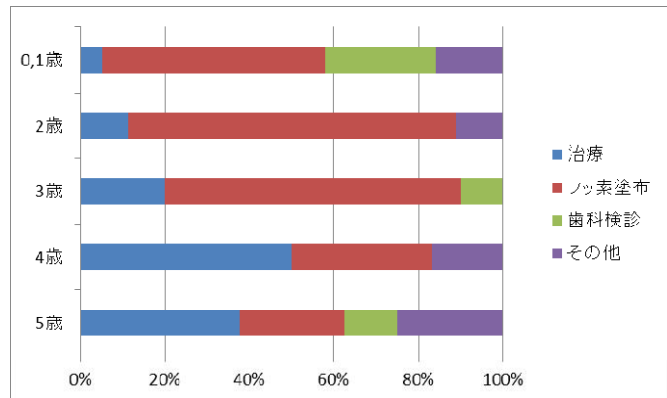


図3. 年齢別初診理由

③ 継続受診の有無 (図4)

初診後、継続受診している児は7割弱である。

その後も気になった時でなく、定期的に受診している児の方が7割弱と多かった。

④ 歯科医院の選択理由 (図5)

歯科医院の選択については近所だからという理由が約半数であり、親のかかりつけの歯科医院を選択しているという回答は約3割であった。

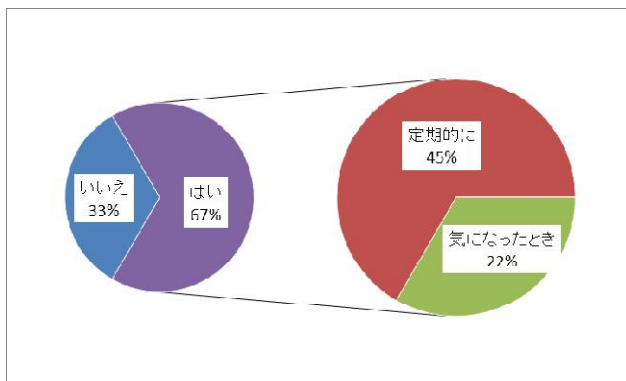


図4. 継続受診の有無

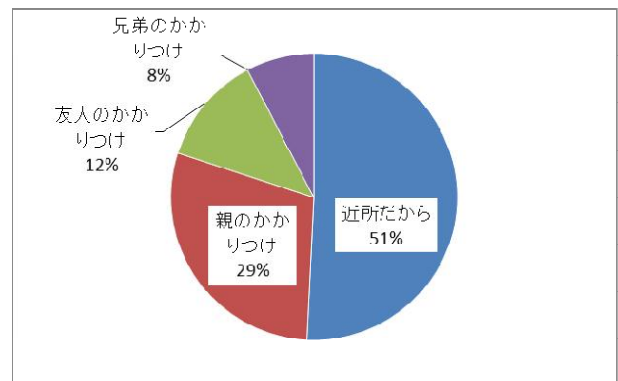


図5. 歯科医院の選択理由

⑤ 歯科医院でのフッ素塗布の有無と実施のきっかけ (図6)

歯科医院でフッ素塗布を行っているという回答した人は58%であった。そのうち市の健診で勧められたことがきっかけという児は35.7%であり、その他友人、歯科医院で勧められたという回答であった。

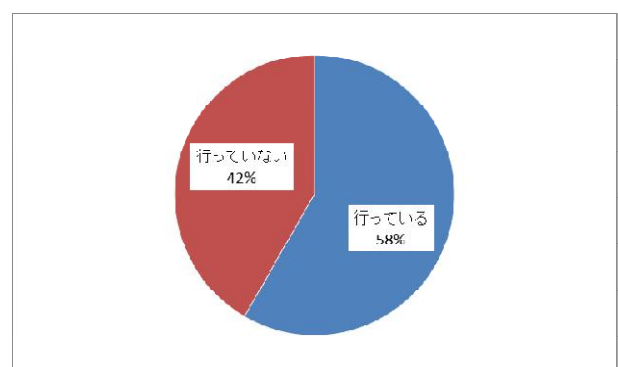


図6. 歯科医院でのフッ素塗布の有無

⑥ (歯科医院受診歴のない児に対して) 歯科検診の受診状況

歯科受診歴のない児は、幼稚園や保育園等の通園施設にて歯科検診を受けているという回答がほとんどであった。

#### IV. 考察

アンケート集計の結果、4・5歳児の歯科受診経験者は約6割であった。受診経験がない児であっても、通園施設で歯科検診を受けている児がほとんどである。

また、歯科受診経験者の初診理由を年齢別にみると、3歳までは予防目的であり、4歳以降は治療を目的とした受診が多かった。4歳以降、う蝕に罹患する児が増加するためと考えられる。4歳を過ぎると就園など児を取り巻く生活背景はガラリと変化する。その中で保護者による児への歯科保健行動がう蝕罹患を防ぐ上で重要になってくる。ほとんどの児は歯科医院や通園施設で歯科検診を受けているが、通園施設での歯科検診は結果のみの通知であり、予防処置もないためう蝕予防には不十分である。そのため、4歳前までの早い時期にかかりつけ歯科医院を持つ必要がある。

船橋市では、妊娠期のママになるための教室から、乳児期・幼児期の健診事業や相談事業、地区健康教育などにおいて、児が3歳になるまでに1年に1回以上歯科保健教育を受ける機会が設けられている。

また、かかりつけ歯科医院を持ってもらう取り組みとして、船橋歯科医師会の協力のもと、フッ化物塗布実施の有無やフッ化物配合歯磨剤の取扱い等を記載した歯科医院一覧表を、各事業実施時に保護者に配布をしている。

今後も保護者の歯科予防に関する意識を高め、かかりつけ歯科医院を持つ重要性を理解してもらえよう、効果的な教育を実施していきたい。